

東京成徳大学

アクティブラーニング実施状況調査報告書

企画・IR室

平成28年5月25日

目 次

はじめに	2
I 調査の目的と概要	3
1 調査の目的	3
2 調査の概要	3
II 調査の結果と考察	4
1 大学全体の結果と考察	4
1-1 調査結果の概要	4
1-2 考察と今後の課題	6
1-3 集計結果	9
2 各学科の結果と考察	19
2-1 人文学部	19
・日本伝統文化学科	19
・国際言語文化学科	22
・観光文化学科	25
・共通領域部	28
2-2 応用心理学部	31
・福祉心理学科	31
・臨床心理学科	35
・健康・スポーツ心理学科	39
2-3 子ども学部	42
・子ども学科	42
2-4 経営学部	45
・経営学科	45
3 参 考 「教育歴別の集計結果」	48
3-1 結果の概要	48
3-2 考察と今後の課題	48
III 資 料	53
1 大学全体の集計結果（回答数表示）	53
2 アンケート票と回答用紙	62

はじめに

教育に限らないが、何事にも不易と流行がある。

昨今の小学校から大学までのアクティブラーニングの隆盛が不易なものとして定着するのか、一時の流行に終わるのかはまだわからない。

しかし、一時の流行ととらえて無為のままというのも怖い。

本調査を実施したのは、アクティブラーニングの定義を以下のように考えるなら、実は、不易な教育方法としてさまざまな形で大学教育の中に取り込まれているはずだとの考えからである。

【本調査で対象とするアクティブラーニングの定義】

「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」（文部科学省『用語集』より）。

検索をしてみたところ、北海道大学高等教育推進機構の徳井美智代・宮本淳氏が行った調査（「北海道大学におけるアクティブラーニング及び PBL 型授業の現状についてのアンケート（2014）」）が見つかり、徳井氏の快諾もあり、本学でも一部変更した形で実施することとなった。

企画・IR 室が中心になり、2016 年 1 月下旬、に専任、非常勤全員に調査用紙を配布し、両キャンパスの教務課の尽力で回収し、八千代教務課でマークシートの読み取り、結果の分析をおこなった。

関係者の方々の尽力に衷心より感謝申し上げると同時に、本学でのアクティブラーニングの一層の充実を期待したい。

本調査の企画・実施にあたったワーキンググループのメンバーは以下の通りである。

長谷部孝司（主査）、石黒万理子、岩瀬弘和、内田善浩、岡村義継、岡本和彦、小林雅央、深山静夫

平成 28 年 5 月 25 日

東京成徳大学
学長 海保 博之

I 調査の目的と概要

1 調査の目的

一方向的な知識伝達型の講義だけではなく、学修者の能動的な学修への参加を通して、新たな問題の発見とそれを解決するための高度な思考力などを育成する教育のあり方が求められている。アクティブラーニング（以下本文ではALとする）は、そのための最も効果的な教育方法とされている。

本調査は、本学で開講されている全授業科目について、「まえがき」のALの定義に従って見直したときに、ALの要素技術がどの程度まで導入・実施されているかについて実態を明らかにすることで、今後の教育の質の向上に資する情報を得ることを目的として行われたものである。

2 調査の概要

(1)実施期間

平成28年1月11日～1月25日

(2)調査対象者

平成27年度後期に授業を担当した東京成徳大学全教員（非常勤講師含む）

(3)調査対象科目

平成27年度後期の授業科目（通年科目の場合は後期分の授業を対象とする）

(4)調査方法

アンケート用紙と回答用紙（マークシート方式）の配布と回収

(5)調査項目

- ・アクティブラーニングを採用している授業数
- ・アクティブラーニングの要素と頻度
- ・アクティブラーニングを採用している授業における学生の反応
- ・アクティブラーニングを採用するにあたっての課題
- ・アクティブラーニングを採用していない理由、など

(6)実施主体

ALワーキンググループ（長谷部〔主査〕、岡本、岩瀬、石黒、深山、岡村、小林、内田）
企画・IR室

(7)回収状況

	配布数	回収数	回収率（%）
人文学部	66	58	87.9
応用心理学部	40	34	85.0
子ども学部	70	29	41.4
経営学部	35	19	54.2
合 計	211	140	66.3

(8)参考資料

本調査は、北海道大学高等教育推進機構（徳井美智代、宮本淳）の「北海道大学におけるアクティブラーニング及びPBL型授業の現状についてのアンケート調査集計」（2014年3月）を参考とした。

Ⅱ 調査の結果と考察

本調査のアンケート回収数は全体で 140 であり、各学科では 10～30 程度となっている。そこで、大学全体の集計結果は比率で示したが、各学科の集計は実際の回答数で示した。なお、大学全体の実際の回答数は「Ⅲ 資料」を参照されたい。

1 大学全体の結果と考察

1-1 調査結果の概要（回答者数：140 名）

①科目別アクティブラーニング導入の状況

	入門・教養科目	専門・専門関連科目
講義科目	89%	89%
演習科目	93%	98%
実習・実技科目	60%	96%

②アクティブラーニングの要素別導入状況（「ある程度」と「大いに」との合計）

・入門・教養科目

講 義	課題やレポートの提出	72%
	コメント・質問の提出および回答	64%
	発問・応答・挙手を求める	49%
演 習	課題やレポートの提出	88%
	発問・応答・挙手を求める	72%
	コメント・質問の提出および回答 ディスカッション・ディベート グループワーク、課題やレポートの提出	64%
	グループワーク 課題解決型学習	100% 67%

・専門・専門関連科目

講 義	課題やレポートの提出	71%
	コメント・質問の提出および回答	70%
	発問・応答・挙手を求める	56%
演 習	発問・応答・挙手を求める	89%
	課題やレポートの提出	81%
	コメント・質問の提出および回答 プレゼンテーション	69%
実習・実技	課題やレポートの提出	85%
	発問・応答・挙手を求める コメント・質問の提出および回答	73%
	体験学習	62%

③【アクティブラーニング導入済の方 132 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを取り入れているのはなぜですか（複数回答可）。

授業効果が高いと思うから	42%
一方的な講義だけでは学生が飽きてしまうから	35%

④【アクティブラーニング導入済の方 132 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを取り入れている授業における学生の反応についてどのように感じていますか。

積極的に取り組んでいる	61%
どちらともいえない	32%

⑤【アクティブラーニング導入済の方 132 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用して学生に対する効果、成果を実感しますか。

効果が大きいと感じる	61%
どちらともいえない	32%

⑥【アクティブラーニング導入済の方 132 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

現状のまま	54%
もっと増やしたい	45%

⑦【アクティブラーニング未導入の方 8 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用していない理由をお聞かせ下さい（複数回答可）

必要を感じないから	20%
仕事量が増えそうだから	20%
本学の学生には向いていないから	20%

⑧【アクティブラーニング未導入の方 8 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

迷っている	38%
採用するつもりはない	25%

⑨【「①効果が大きいと感じる」と答えた方 81 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングの中で、どの要素に効果を感じていますか。（三つまで回答可）

課題やレポートの提出	18%
コメント・質問の提出および回答	15%
プレゼンテーション	15%
発問・応答・挙手を求める	14%

⑩【実施している方と実施していないが今後は実施しようと思っている方 127 名のみ回答】

・今後実施してみたいアクティブラーニングの要素を、三つまであげて下さい。

プレゼンテーション	14%
グループワーク	10%
反転学習	10%
発問・応答・挙手を求める	9%
ディスカッション・ディベート	9%
課題解決型学習	9%
フィールドワーク	9%

⑪【該当者 116 名のみ回答】

・アクティブラーニングを採用するにあたって課題と覚えることはありますか。(複数回答可)

授業の進め方の難しさ	30%
授業の準備の大変さ	26%
評価の難しさ	24%

1 - 2 考察と今後の課題

調査結果への評価

【AL の採用状況】

AL の採用状況は、どの領域(入門・教養、専門・専門関連)、どの授業形態(講義、演習、実技・実習)の科目においても高い採用率(89～98%の教員、80～95%の科目)であり(科目は「1 - 3 集計結果」参照)、十分なレベルと言える。

なお、入門・教養科目の実習・実技科目に対する回答者は 3 名のみであったので、今回は評価を保留とする。

【AL の要素】

まず、採用されている AL 要素を見ると、どの領域(入門・教養、専門・専門関連)、どの授業形態(講義、演習、実技・実習)の科目でも、上位 3 位には「課題やレポートの提出」、「コメント・質問の提出および回答」、「発問・応答・挙手を求める」の 3 要素が入っている。

次に、上位 3 位未満を見ると(「1 - 3 集計結果」)、入門・教養科目では、講義科目に比べて演習科目で「ディスカッション・ディベート」、「プレゼンテーション」、「グループワーク」、「課題解決型学習」の採用比率が高くなっている。

専門・専門関連科目でも、講義科目に比べて演習科目では「ディスカッション・ディベート」、「プレゼンテーション」、「グループワーク」、「課題解決型学習」などの採用比率が高くなっており、実習・実技科目でも「グループワーク」、「フィールドワーク」、「体験学習」などの採用比率が高くなっている。

最後に、講義科目について、入門・教養科目と専門・専門関連科目における AL 要素の採用状況を比べると(「1 - 3 集計結果」)、特に大きな違いはない。同様に、演習科目についても大きな違いは見られない。

以上から以下が確認できる。

①AL 要素の上位 3 項目はほぼすべての科目で積極的に採用されている。

②講義、演習などの授業形態の違いによる AL 要素の採用状況の違いは、3 位未満の AL 要素の採用の仕方の違いによっている。

③入門・教養、専門・専門関連という領域の違いは、AL 要素の採用の仕方に大きな影響を与えていない。

【AL 導入の効果等】

AL について、導入の理由（「結果概要」の③＝問 3）、学生の反応（同④＝問 4）、効果・成果（同⑤＝問 5）を見ると、それぞれ、「授業効果が高い：42%」、「学生が飽きてしまう：35%」、「積極的に取り組んでいる：61%」、「どちらともいえない：32%」、「効果が大きいと実感する：61%」、「どちらともいえない：32%」、という結果である。一定の効果が期待されるとともに、成果も得られていると言える。

次に、「どの要素に効果を感じるか」（同⑨＝問 9）を見ると、「課題やレポートの提出：18%」、「コメント・質問の提出および回答：15%」、「プレゼンテーション：15%」、「発問・応答・挙手を求める：14%」が上位を占めている。これらは、先の AL 要素の採用順位でも上位の項目であり、ここでも上位となるのはある意味で自然である。しかし、これらは採用率では 49～89%と高い数値であるが、効果があるとする教員の比率は 14～18%と低い数値である。上位 3 要素は導入しやすい方法ではあるが、これだけで十分な効果を得ることは難しいと言える。

【AL への今後の取り組み】

今後の取り組みについては、既に AL を導入している教員からは、「もっと増やしたい：45%」であるのに対して、「現状のまま：54%」である。他方、AL 未導入の教員は 8 名と少数ではあるが、「採用しようと思う：0%」であり、導入にはきわめて消極的である。

AL 導入に当たって感じる課題については、「授業の進め方の難しさ：30%」、「授業の準備の大変さ：26%」、「評価の難しさ：24%」という結果である。授業の進め方、評価の仕方などについて難しさを感じる教員が一定数いると言える。

今後の課題

【AL の採用状況】

AL の採用比率については、どの領域、授業形態の科目においても高い比率となっており特に問題はない。

【AL の採用要素と効果等】

ただし、採用されている AL 要素は、ほとんどの科目で「課題やレポートの提出」、「コメント・質問の提出および回答」、「発問・応答・挙手を求める」の 3 項目が上位を占めている。これらは、初歩的で導入しやすい要素であり、それ自体は自然な結果であるが、AL のねらいが「学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る」という高度なものであるとすれば、初歩的な要素の導入で満足することは出来ない。実際、本調査においても、AL の要素としてこれらを採用した教員の比率は 49～89%であるが、これらに対して効果があるとした教員の比率は 14～18%であり、これらの要素だけでは十分な効果を得ることは難しいと言える。

AL は学生の能動的な学修を前提に、単なる知識の詰め込みではなく、知識を使って新たな問題を発見し、それを解決する高度な思考力などを育成することを目的とする教育方法である。それだけに、表面的な取り組みのアクティブさを超えて学生一人一人の認知活動のアクティブさまで射程にいれて考える必要がある。

また、教員の効果があるとする実感についても、さらに学生の成績や感想などによって検証していく必要がある。

【AL への今後の取り組み】

「現状のまま：54%」に対して「もっと増やしたい：45%」である。「もっと増やしたい」層に対しては、AL の要素技術に関する情報提供や研修活動を活発にする必要がある。

他方、AL 未導入の教員は 8 名と少数ではあったが、「採用しようと思う：0%」である。これについては、さらに理由等を伺いたいところである。

AL 導入に当たって感じる課題については、「授業の準備の大変さ：26%」のほかに「授業の進め方の難しさ：30%」と「評価の難しさ：24%」となっており、研修会などを通じた情報共有や支援体制の整備が必要である。

将来計画

AL が、学生の能動的な学修を通して高度な思考力等の育成を目的とする教育方法であるとすれば、初歩的な AL 要素の導入に加えて、「ディスカッション・ディベート」、「課題解決型学習」、「反転学習」などの要素の導入をさらに進める必要がある。

とはいえ、このような AL のねらいや効果的な授業方法について、十分なスキルを持つ教員は限られている。他方、少子化の進行の中で、十分な知識を身につけないまま入学してくる学生が一定数見られることも否めない。

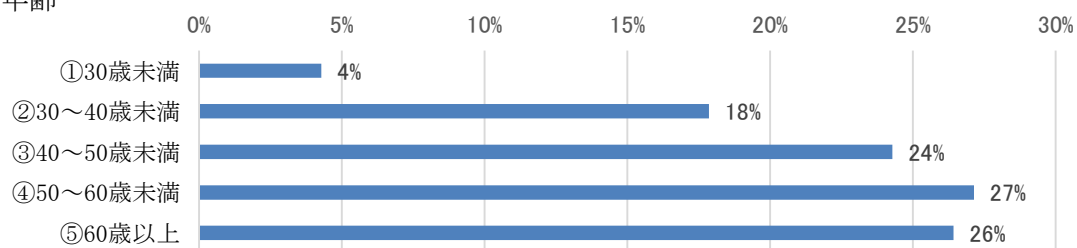
このような中で、AL のねらいを文字通り実現していくことは容易ではないが、今後は以下について検討することで改善を図っていきたい。

- ①カリキュラムの見直し
- ②クラス編成方法の見直し
- ③FD 研修会などを通じた情報共有の促進
- ④AL をささえる数々のローテク、ハイテクシステムの導入
- ⑤TA（ティ칭ング・アシスタント）などの導入
- ⑥改革の成果を検証するための調査の充実

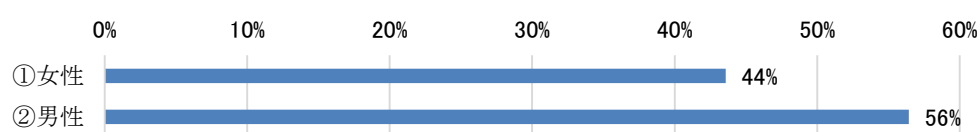
1 - 3 集計結果

●「あなたのこと」を教えてください。(n = 140)

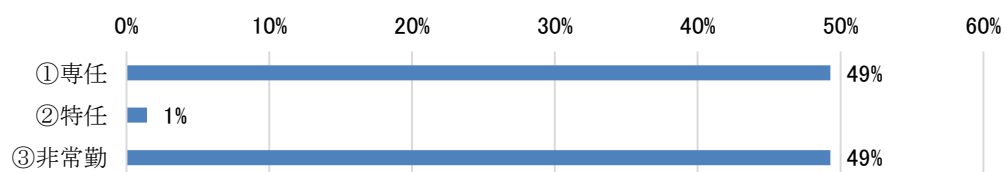
(1) 年齢



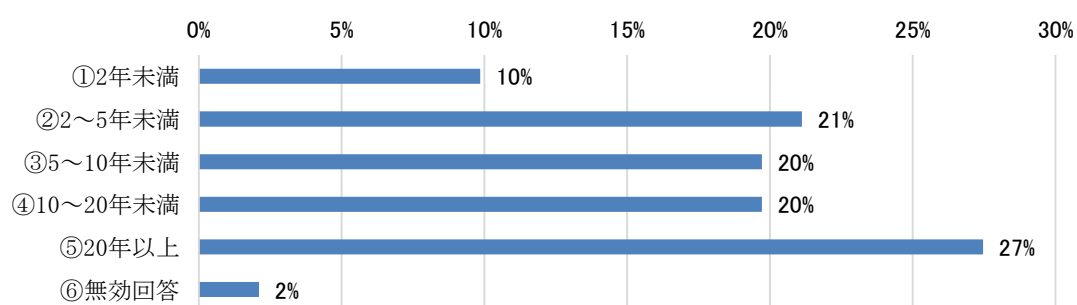
(2) 性別



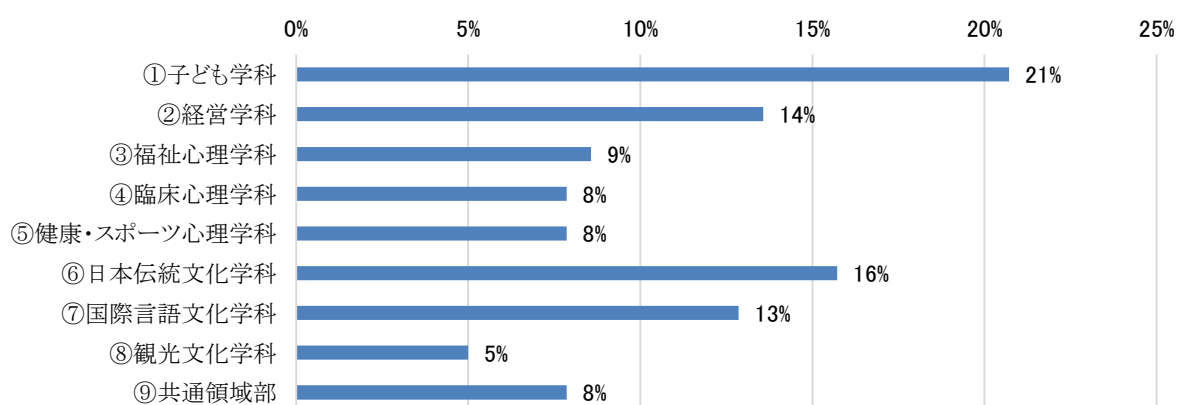
(3) 勤務形態



(4) 大学での教育歴（無効回答 1 名）



(5) 所属



●今年度後期にご担当の授業科目についてお答え下さい。(n=140)

問1 以下の授業科目のそれぞれで、アクティブラーニングを採用している科目数はどれくらいありますか。

(1) 入門・教養科目

	担当している人数	アクティブラーニング採用人数	割合
講義科目	44 人	39 人	89%
演習科目	27 人	25 人	93%
実習・実技科目	5 人	3 人 (内 1 名科目数不明)	60%

・講義科目

【科目合計】

アクティブラーニング採用科目数
担当している科目数
71
78
割合 = 91%

【人数】

7科目								-
6科目							-	-
5科目					2	-	-	-
4科目				2	-	-	-	-
3科目			3	1	-	-	-	-
2科目		10	-	-	-	-	-	-
1科目	21	-	-	-	-	-	-	-
0科目	96	4	1	-	-	-	-	-
	0科目	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目

アクティブラーニング採用科目数

担当している科目数

・演習科目

【科目合計】

アクティブラーニング採用科目数	
担当している科目数	
56	
60	
割合	= 93%

【人数】

7科目								-
6科目							2	-
5科目						-	-	-
4科目					2	-	-	-
3科目				3	-	-	-	-
2科目			9	-	-	-	-	-
1科目		9	-	-	-	-	-	-
0科目	113	-	2	-	-	-	-	-
	0科目	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目

担当している科目数

・実習/実技科目

【科目合計】

アクティブラーニング採用科目数	
担当している科目数	
3	
10	
割合	= 30%

【人数】（科目数不明 2 名）

7科目								-
6科目							-	-
5科目						-	-	-
4科目					-	-	-	-
3科目				-	-	-	-	-
2科目			1	-	-	-	-	-
1科目		-	1	-	-	-	-	-
0科目	133	2	-	-	1	-	-	-
	0科目	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目

担当している科目数

(2) 専門・専門関連科目

	担当している人数	アクティブラーニング採用人数	割合
講義科目	82 人	73 人	89%
演習科目	86 人	84 人（内 1 名科目数不明）	98%
実習・実技科目	27 人	26 人	96%

・講義科目

【科目合計】

アクティブラーニング採用科目数	
担当している科目数	
142	
177	
割合	= 80%

【人数】（科目数不明 1 名）

7科目								1
6科目							2	-
5科目						1	-	-
4科目					5	-	-	-
3科目				5	2	-	-	-
2科目			15	3	1	-	-	1
1科目		33	2	1	1	-	-	-
0科目	57	4	3	2	-	-	-	-
	0科目	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目

担当している科目数

・演習科目

【科目合計】

アクティブラーニング採用科目数
担当している科目数
174
183
割合 = 95%

【人数】（科目数不明 1 名）

7科目								2
6科目							1	-
5科目						2	-	-
4科目				5	-	-	-	-
3科目			13	-	-	-	-	-
2科目		25	-	-	-	-	-	-
1科目	32	2	1	-	-	-	-	-
0科目	53	1	2	-	-	-	-	-
	0科目	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目

アクティブラーニング採用科目数

担当している科目数

・実習/実技科目

【科目合計】

アクティブラーニング採用科目数
担当している科目数
37
40
割合 = 93%

【人数】（科目数不明 2 名）

7科目								-
6科目							-	-
5科目						-	-	-
4科目				1	-	-	-	-
3科目			-	1	-	-	-	-
2科目		6	-	-	-	-	-	-
1科目	18	-	-	-	-	-	-	-
0科目	111	-	1	-	-	-	-	-
	0科目	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目

アクティブラーニング採用科目数

担当している科目数

問 2 アクティブラーニングの要素としては、以下の各項目をそれぞれの程度導入していますか。

※複数の科目を担当している場合は、それらを全体的に見た結果を選択

(1) 入門・教養科目

① 講義科目

	なし	少し	ある程度	大いに	無効回答
①発問・応答・挙手を求める	5 %	44 %	33 %	15 %	3 %
②コメント・質問の提出および回答	8 %	26 %	26 %	38 %	3 %
③課題やレポートの提出	8 %	18 %	36 %	36 %	3 %
④ディスカッション・ディベート	59 %	5 %	31 %	3 %	3 %
⑤ブレインストーミング	62 %	15 %	21 %	0 %	3 %
⑥プレゼンテーション	51 %	18 %	18 %	10 %	3 %
⑦グループワーク	62 %	15 %	10 %	10 %	3 %
⑧課題解決型学習（PBL）	59 %	18 %	13 %	8 %	3 %
⑨反転学習	72 %	13 %	10 %	3 %	3 %
⑩フィールドワーク	79 %	10 %	0 %	5 %	5 %
⑪体験学習	69 %	10 %	10 %	5 %	5 %
⑫その他	87 %	0 %	5 %	3 %	5 %

※その他具体的内容

日本人学生、先生方へのインタビュー（相手を探し、頼み、実施、レポート） 新聞への投書 外部の作文コンクール、スピーチコンテストに応募、年賀状を書く等 授業の中で学生の作品を2～3回添削指導する、学生作品の展示

(n = 39)

② 演習科目

	なし	少し	ある程度	大いに	無効回答
①発問・応答・挙手を求める	4 %	24 %	28 %	44 %	0 %
②コメント・質問の提出および回答	12 %	24 %	20 %	44 %	0 %
③課題やレポートの提出	8 %	4 %	36 %	52 %	0 %
④ディスカッション・ディベート	24 %	12 %	44 %	20 %	0 %
⑤ブレインストーミング	28 %	36 %	16 %	20 %	0 %
⑥プレゼンテーション	12 %	24 %	16 %	44 %	4 %
⑦グループワーク	24 %	12 %	16 %	48 %	0 %
⑧課題解決型学習（PBL）	32 %	8 %	24 %	36 %	0 %
⑨反転学習	60 %	16 %	24 %	0 %	0 %
⑩フィールドワーク	84 %	8 %	0 %	8 %	0 %
⑪体験学習	64 %	4 %	12 %	20 %	0 %
⑫その他	92 %	0 %	4 %	4 %	0 %

※その他具体的内容

作品制作、鑑賞、活用

(n = 25)

③ 実習・実技科目

	なし	少し	ある程度	大いに	無効回答
①発問・応答・挙手を求める	0 %	67 %	33 %	0 %	0 %
②コメント・質問の提出および回答	33 %	67 %	0 %	0 %	0 %
③課題やレポートの提出	33 %	33 %	0 %	33 %	0 %
④ディスカッション・ディベート	67 %	33 %	0 %	0 %	0 %
⑤ブレインストーミング	67 %	0 %	33 %	0 %	0 %
⑥プレゼンテーション	67 %	0 %	33 %	0 %	0 %
⑦グループワーク	0 %	0 %	67 %	33 %	0 %
⑧課題解決型学習（PBL）	0 %	33 %	33 %	33 %	0 %
⑨反転学習	67 %	33 %	0 %	0 %	0 %
⑩フィールドワーク	100 %	0 %	0 %	0 %	0 %
⑪体験学習	67 %	0 %	33 %	0 %	0 %
⑫その他	100 %	0 %	0 %	0 %	0 %

※その他具体的内容

--

(2) 専門・専門関連科目

① 講義科目

	なし	少し	ある程度	大いに	無効回答
①発問・応答・挙手を求める	3 %	41 %	23 %	33 %	0 %
②コメント・質問の提出および回答	8 %	22 %	26 %	44 %	0 %
③課題やレポートの提出	11 %	18 %	32 %	40 %	0 %
④ディスカッション・ディベート	45 %	27 %	21 %	7 %	0 %
⑤ブレインストーミング	66 %	15 %	12 %	7 %	0 %
⑥プレゼンテーション	48 %	12 %	27 %	12 %	0 %
⑦グループワーク	52 %	25 %	11 %	11 %	1 %
⑧課題解決型学習 (PBL)	66 %	18 %	12 %	3 %	1 %
⑨反転学習	78 %	11 %	10 %	0 %	1 %
⑩フィールドワーク	84 %	8 %	5 %	1 %	1 %
⑪体験学習	60 %	16 %	15 %	7 %	1 %
⑫その他	90 %	3 %	0 %	5 %	1 %

※その他具体的内容

学習指導案の作成及び模擬授業の実施 専用ノートの使用と提出、質問カードの提出 ビデオ映像から行動の観察記録をとる ゲストによる講義とそのまとめ オーティエンシスレスポンスシステム (Socratic) の活用
--

(n = 73)

② 演習科目

	なし	少し	ある程度	大いに	無効回答
①発問・応答・挙手を求める	0 %	11 %	36 %	54 %	0 %
②コメント・質問の提出および回答	11 %	18 %	26 %	43 %	2 %
③課題やレポートの提出	6 %	11 %	20 %	61 %	2 %
④ディスカッション・ディベート	19 %	19 %	29 %	31 %	2 %
⑤ブレインストーミング	27 %	33 %	23 %	13 %	4 %
⑥プレゼンテーション	11 %	18 %	30 %	39 %	2 %
⑦グループワーク	21 %	20 %	21 %	33 %	4 %
⑧課題解決型学習 (PBL)	42 %	17 %	20 %	19 %	2 %
⑨反転学習	67 %	17 %	10 %	5 %	2 %
⑩フィールドワーク	63 %	21 %	10 %	4 %	2 %
⑪体験学習	54 %	20 %	12 %	12 %	2 %
⑫その他	93 %	2 %	0 %	2 %	2 %

※その他具体的内容

ピアレビュー 作品制作、鑑賞、活用

(n = 84)

③ 実習・実技科目

	なし	少し	ある程度	大いに	無効回答
①発問・応答・挙手を求める	0 %	23 %	38 %	35 %	4 %
②コメント・質問の提出および回答	8 %	15 %	31 %	42 %	4 %
③課題やレポートの提出	8 %	4 %	23 %	62 %	4 %
④ディスカッション・ディベート	27 %	38 %	8 %	23 %	4 %
⑤ブレインストーミング	42 %	31 %	12 %	12 %	4 %
⑥プレゼンテーション	27 %	19 %	27 %	23 %	4 %
⑦グループワーク	12 %	42 %	19 %	23 %	4 %
⑧課題解決型学習（PBL）	50 %	27 %	8 %	12 %	4 %
⑨反転学習	77 %	15 %	4 %	0 %	4 %
⑩フィールドワーク	54 %	0 %	15 %	27 %	4 %
⑪体験学習	27 %	8 %	8 %	54 %	4 %
⑫その他	92 %	0 %	0 %	4 %	4 %

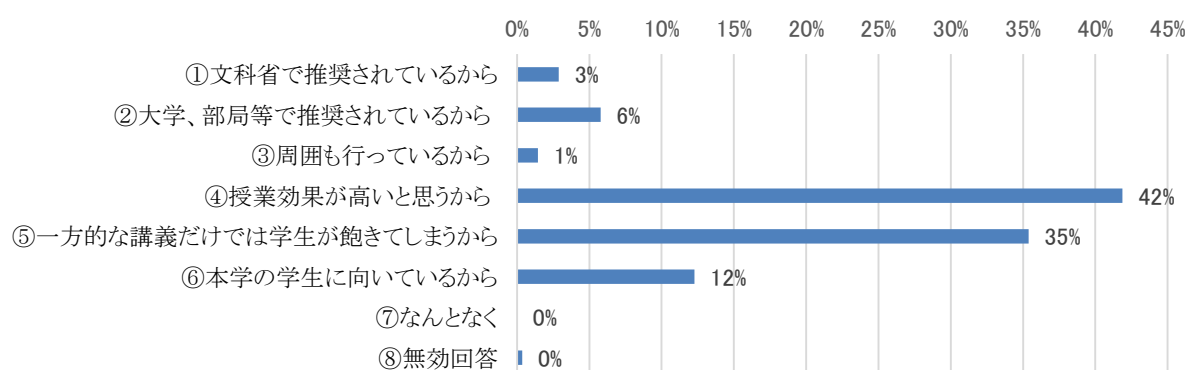
※その他具体的内容

学生が現場実習の前後に大学へ提出する課題から、現場実習において能動的に学んでいる様子
がうかがえる

(n = 26)

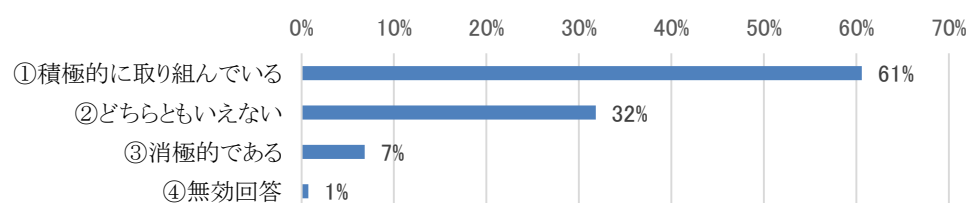
問 3 【アクティブラーニング導入済の方 132 名のみ回答】

アクティブラーニングを取り入れているのはなぜですか（複数回答可）。



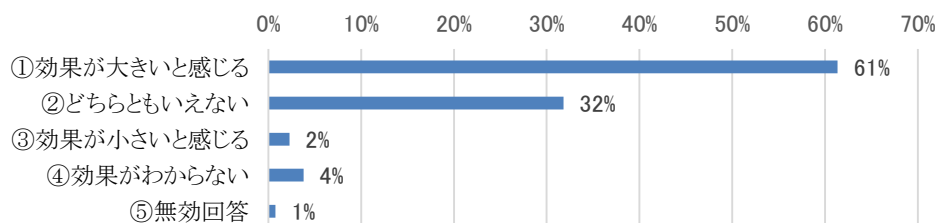
問 4 【アクティブラーニング導入済の方 132 名のみ回答】

アクティブラーニングを取り入れている授業における学生の反応についてどのように感じていますか。



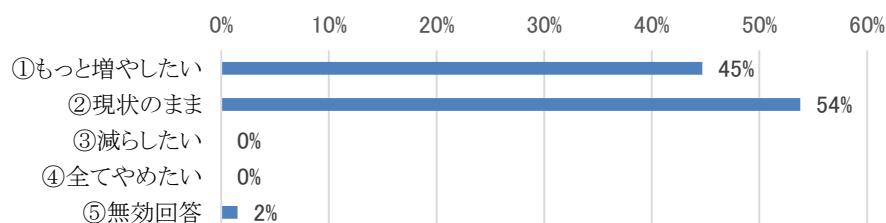
問 5 【アクティブラーニング導入済の方 132 名のみ回答】

アクティブラーニングを採用して学生に対する効果、成果を実感しますか。



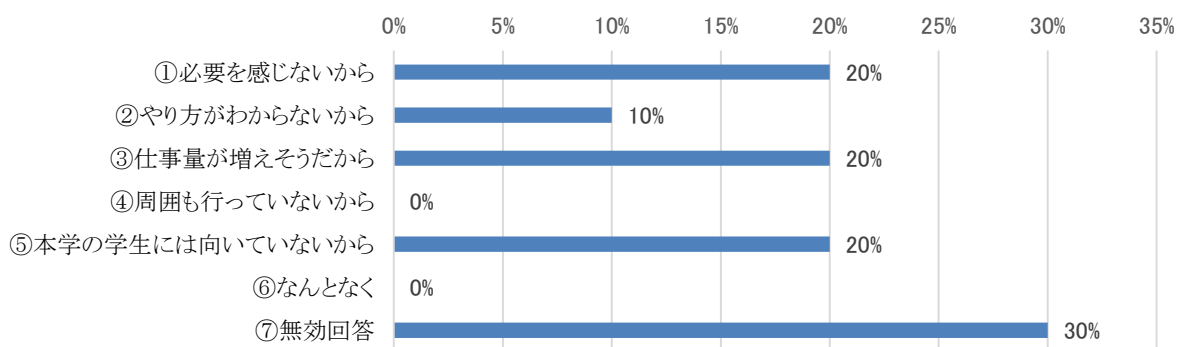
問 6 【アクティブラーニング導入済の方 132 名のみ回答】

アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。



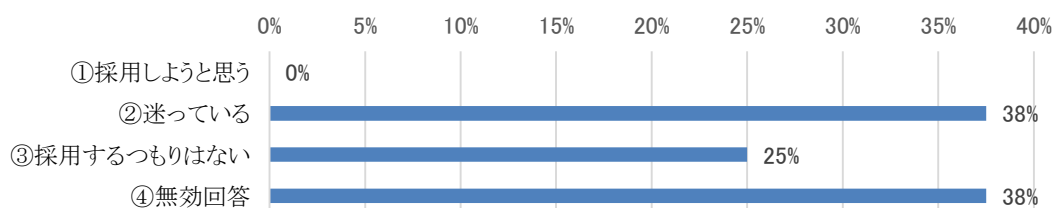
問 7 【アクティブラーニング未導入の方 8 名のみ回答】

アクティブラーニングを採用していない理由をお聞かせ下さい（複数回答可）



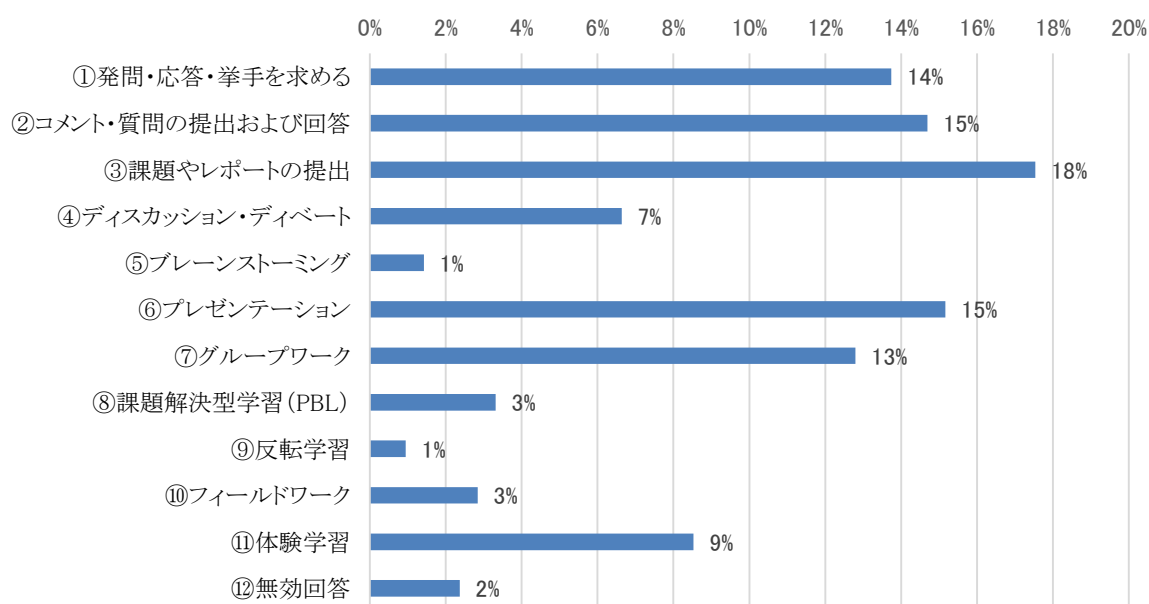
問 8 【アクティブラーニング未導入の方 8 名のみ回答】

アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。



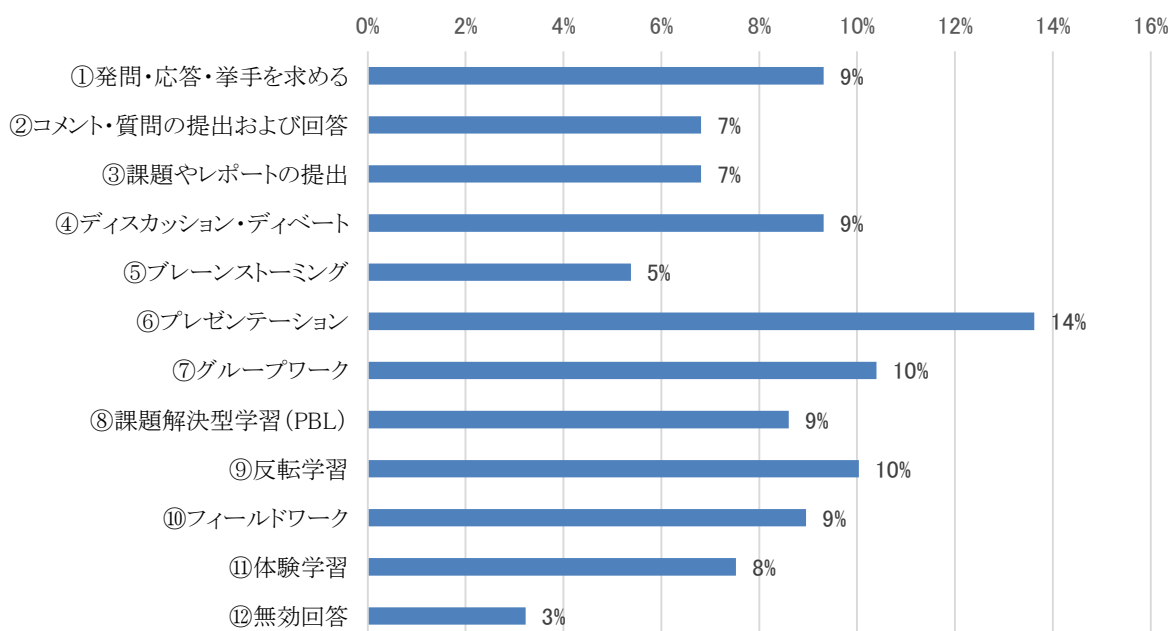
問 9 【問 5 で「①効果が大きいと感じる」と答えた方 81 名のみ回答】

アクティブラーニングの中で、どの要素に効果を感じていますか。三つまであげてください（三つまで回答可）。



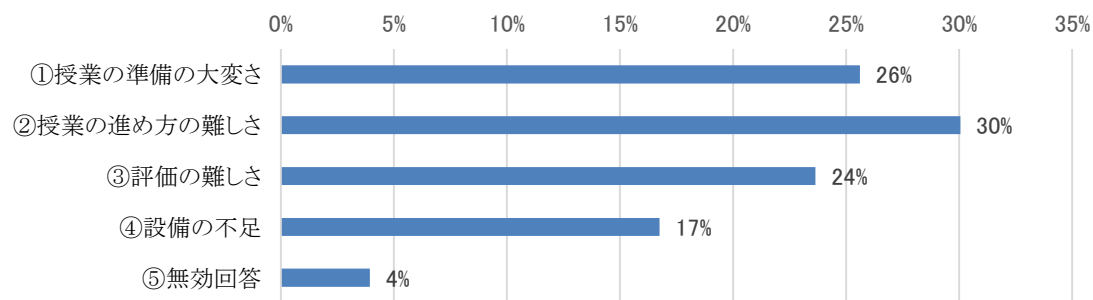
問 10 【すでにアクティブラーニングを実施している方と現在は実施していないが今後は実施しようと思っている方 127 名のみ回答】

今後実施してみたいアクティブラーニングの要素を、三つまであげてください（三つまで回答可）。



問 11 【該当者 116 名のみ回答】

アクティブラーニングを採用するにあたって課題と感ずることはありますか（複数回答可）。



※問 4.～5、及び問 11 に対するコメント

アクティブラーニングの効果が出る最適学生数があると思われる
学生数が多すぎると効果が出ない
コメント、レポート（課題）に対する指導・再提出には少人数授業か補助教員がどうしても必要
と考える

2 各学科の結果と考察

2-1 人文学部

●日本伝統文化学科（回答者数：22名）

(1)調査結果の概要

①科目別アクティブラーニング導入の状況

	入門・教養科目	専門・専門関連科目
講義科目	6/7 人	10/12 人
演習科目	2/2 人	11/11 人
実習・実技科目	0/1 人	3/3 人

②アクティブラーニングの要素別導入状況（「ある程度」と「大いに」との合計）

・入門・教養科目

講 義	発問・応答・挙手を求める 課題やレポートの提出	3/6 人
	コメント・質問の提出および回答	2/6 人
演 習	発問・応答・挙手を求める コメント・質問の提出および回答 課題やレポートの提出 ディスカッション・ディベート	2/2 人
実習・実技		0/0 人

・専門・専門関連科目

講 義	課題やレポートの提出	8/10 人
	発問・応答・挙手を求める	7/10 人
	コメント・質問の提出および回答	6/10 人
演 習	発問・応答・挙手を求める	9/11 人
	プレゼンテーション	8/11 人
	コメント・質問の提出および回答 課題やレポートの提出	7/11 人
実習・実技	課題やレポートの提出	3/3 人
	発問・応答・挙手を求める コメント・質問の提出および回答 ブレインストーミング グループワーク 体験学習	2/3 人

③【アクティブラーニング導入済の方 22 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを取り入れているのはなぜですか（複数回答可）。

授業効果が高いと思うから 21 人

一方的な講義だけでは学生が飽きてしまうから 14 人

④【アクティブラーニング導入済の方 22 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを取り入れている授業における学生の反応についてどのように感じていますか。

積極的に取り組んでいる 12 人

どちらともいえない 9 人

⑤【アクティブラーニング導入済の方 22 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用して学生に対する効果、成果を実感しますか。

効果が大きいと感じる 12 人

どちらともいえない 9 人

⑥【アクティブラーニング導入済の方 22 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

現状のまま 11 人

もっと増やしたい 11 人

⑦【アクティブラーニング未導入の方 0 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用していない理由をお聞かせ下さい（複数回答可）

⑧【アクティブラーニング未導入の方 0 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

⑨【「①効果が大きいと感じる」と答えた方 22 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングの中で、どの要素に効果を感じていますか。（三つまで回答可）

課題やレポートの提出 6 人

コメント・質問の提出および回答 6 人

発問・応答・挙手を求める 6 人

⑩【実施している方と実施していないが今後は実施しようと思っている方 20 名のみ回答】

- ・今後実施してみたいアクティブラーニングの要素を、三つまであげて下さい。

プレゼンテーション 6 人

課題解決型学習 5 人

⑪【該当者 18 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用するにあたって課題と覚えることはありますか。(複数回答可)

授業の進め方の難しさ

7 人

評価の難しさ

6 人

(2)考察と今後の課題

調査結果への評価

学科の結果は、全体的には大学全体の傾向とほぼ一致していた。

日本伝統文化学科では、従来から実体験重視の教育方法を掲げており、AL 的な授業法は行っていたが、全回答者が AL を取り入れている結果となったのはあらためて学科の教育方針が浸透していることを確認できたと評価している。

入門教養科目と専門科目では若干数値が異なっている。一例として「コメント・質問の提出及び回答」の採用が、入門科目の講義では 33%、に対して専門科目の講義では 60%であった。このように専門科目の授業の方が AL の各項目を積極的に取り入れていることが示されているが、専門科目の方が少数教育であり、AL の方法を取り入れやすく、また、授業担当者も積極的になれる環境にあると考えられる結果であった。

今後の課題

フィールドワーク、体験学習などは学科全体で行っているため、今回の個別授業調査では数値として表れていないが、学生にとって効果のある方法であることはすでに実証されていると考えている。しかし、これらを個別の授業で積極的に取り入れて行くためには授業期間外に行う必要があるため、成果が上がると予想されても、休日や長期休暇に行うことは学生にとっての負担となることを考慮すると、バランスを取ることが難しい課題となっている。

将来計画

今後実施してみたい AL として、プレゼン、PBL が多く挙げられていた。各教員が積極的に AL の手法を取り入れて行こうと考えていることは望ましい結果と言えよう。

なお、AL の効果についての評価では大学全体で「どちらともいえない」が 32%、であるのに対して日本伝統文化学科の回答は 42.8%と、やや多い。この結果は、授業の効果が上がっていないのではなく、学生がやや消極的な傾向を持っていることが反映されていると思われる。そこで今後は自らの意見をはっきりと打ち出せる学生を育てることが肝要であると思われ、そのためにこそプレゼンテーションや PBL などの導入を図りたい。

その上で、AL の課題として多くの回答者があげていた「評価の難しさ」等の問題と向き合いたい。今後は積極的に AL の手法を取り入れることと並行して、どのようなタイプの授業にどのような方法が最適か、などを教員同士が情報交換しながら適切に行ってゆくことが重要と考えられる。

●国際言語文化学科（回答者数：18名）

(1)調査結果の概要

①科目別アクティブラーニング導入の状況

	入門・教養科目	専門・専門関連科目
講義科目	6/6 人	10/11 人
演習科目	8/7 人	10/11 人
実習・実技科目	0/0 人	0/0 人

②アクティブラーニングの要素別導入状況（「ある程度」と「大いに」との合計）

・入門・教養科目

講 義	コメント・質問の提出および回答	6/6 人
	課題やレポートの提出	5/6 人
	プレゼンテーション	4/6 人
演 習	発問・応答・挙手を求める	7/7 人
	コメント・質問の提出および回答 ディスカッション・ディベート	5/5 人
	実習・実技	0/0 人

・専門・専門関連科目

講 義	発問・応答・挙手を求める	8/10 人
	課題やレポートの提出	8/10 人
	コメント・質問の提出および回答	7/10 人
演 習	発問・応答・挙手を求める	10/10 人
	課題やレポートの提出	10/10 人
	コメント・質問の提出および回答	8/10 人
	実習・実技	0/0 人

③【アクティブラーニング導入済の方 17 名のみ回答】

・アクティブラーニングを取り入れているのはなぜですか（複数回答可）。

授業効果が高いと思うから	16 人
一方的な講義だけでは学生が飽きてしまうから	15 人

④【アクティブラーニング導入済の方 17 名のみ回答】

・アクティブラーニングを取り入れている授業における学生の反応についてどのように感じていますか。

積極的に取り組んでいる	11 人
どちらともいえない	5 人

⑤【アクティブラーニング導入済の方 17 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用して学生に対する効果、成果を実感しますか。

効果が大きいと感じる	1 人
どちらともいえない	5 人

⑥【アクティブラーニング導入済の方 17 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

現状のまま	6 人
もっと増やしたい	10 人

⑦【アクティブラーニング未導入の方 1 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用していない理由をお聞かせ下さい（複数回答可）

やり方がわからないから	1 人
-------------	-----

⑧【アクティブラーニング未導入の方 1 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

迷っている	1 人
-------	-----

⑨【「①効果が大きいと感じる」と答えた方 10 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングの中で、どの要素に効果を感じていますか。（三つまで回答可）

発問・応答・挙手を求める	7 人
プレゼンテーション	6 人

⑩【実施している方と実施していないが今後は実施しようと思っている方 17 名のみ回答】

- ・今後実施してみたいアクティブラーニングの要素を、三つまであげて下さい。

発問・応答・挙手を求める	7 人
プレゼンテーション	5 人
反転学習	5 人

⑪【該当者 14 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用するにあたって課題と感じることはありますか。（複数回答可）

授業準備の大変さ	7 人
授業の進め方の難しさ	7 人
評価の難しさ	6 人

(2)考察と今後の課題

調査結果への評価

- ①回答者 18 名の内 17 名が導入済み（学科は専任教員 9 名、非常勤教員 11 名）。未導入の 1 名の理由はやり方がわからないからと迷っていると。
- ② 教員の 94%は入門・共通科目と、専門・専門関連科目の両方の授業に AL のどれかの方式を導入し

ている。導入理由はより効果的授業と学生の意欲向上を求めるためである。

- ③授業における学生の反応がよいと、学生に対する効果、成果を実感できるのは約 2/3、どちらとも言えないのは約 1/3 だった。
- ④科目への取り組みについての今後の考えは、もっと増やしたいのも約 2/3、現状のままのも約 1/3 だった。
- ⑤効果が感じると答えた要素として「発問・応答・挙手を求める」は 7 名と、「プレゼンテーション」は 6 名で、それぞれ約 1/3 程度だった。
- ⑥今後実施してみたい要素は「発問・応答・挙手を求める」7 名、「プレゼンテーション」5 名、反転授業は 5 名だった。
- ⑦授業の準備が大変、進め方が難しい、評価が難しいと感じたのは、それぞれ 7 名、7 名と、6 名だった。
- ⑧「発問・応答・挙手を求める」は語学授業、特にコミュニケーション、会話、通訳などの授業では、基本として以前から実施している。「プレゼンテーション」も教養科目では PPT などによる学生の発表、質問、コメントを以前から実施している。

今後の課題

- ①殆どの教員は AL のどれかの方式を導入しているが、未導入のもあって、今後は具体的やり方を含めて、AL に対する理解と勉強、経験を増やしていく必要があると思われる。
- ②上記評価の⑦までは「学生反応がよい、効果成果を実感できる、もっと増やしたい」は 2/3 に留まっていること、「授業の準備が大変、進め方が難しい、評価が難しい」などについて、今後は実践成功例の参考を含めて、改善していく必要があると思われる。
- ③「反転授業」は大人数向き（30 名以上）だと言われるが、授業によって少人数の場合はどうすべきかを含めて、「反転授業」について更なる勉強と理解する必要があるのでは。

将来計画

- ① 国際言語文化学科に合う方法の勉強、開発に取り組みたい。
- ② 更に他大学、他学科のいい経験、方法について FD などを通じて学びたい。
- ③ 学生の意欲と、語学等資格取得の実績と運用能力の更なる向上を目指したい。

●観光文化学科（回答者数：7名）

(1)調査結果の概要

①科目別アクティブラーニング導入の状況

	入門・教養科目	専門・専門関連科目
講義科目	4/4 人	6/7 人
演習科目	2/2 人	6/6 人
実習・実技科目	1/1 人	1/1 人

②アクティブラーニングの要素別導入状況（「ある程度」と「大いに」との合計）

・入門・教養科目

講 義	課題やレポートの提出	3/4 人
	発問・応答・挙手を求める コメント・質問の提出および回答	2/4 人
演 習	課題やレポートの提出	2/2 人
実習・実技	課題やレポートの提出 ブレインストーミング プレゼンテーション グループワーク 課題解決型学習（PBL）	1/1 人

・専門・専門関連科目

講 義	発問・応答・挙手を求める	5/6 人
	コメント・質問の提出および回答	4/6 人
	課題やレポートの提出	4/6 人
演 習	発問・応答・挙手を求める	6/6 人
	課題やレポートの提出	5/6 人
実習・実技	発問・応答・挙手を求める コメント・質問の提出および回答 課題やレポートの提出 課題解決型学習（PBL） フィールドワーク	1/1 人

③【アクティブラーニング導入済の方7名のみ回答】

・アクティブラーニングを取り入れているのはなぜですか（複数回答可）。

授業効果が高いと思うから 7 人

一方的な講義だけでは学生が飽きてしまうから 4 人

④【アクティブラーニング導入済の方 7 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを取り入れている授業における学生の反応についてどのように感じていますか。

積極的に取り組んでいる	5 人
消極的である	1 人
どちらともいえない	1 人

⑤【アクティブラーニング導入済の方 7 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用して学生に対する効果、成果を実感しますか。

効果が大きいと感じる	6 人
どちらともいえない	1 人

⑥【アクティブラーニング導入済の方 7 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

現状のまま	2 人
もっと増やしたい	4 人

⑦【アクティブラーニング未導入の方 0 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用していない理由をお聞かせ下さい（複数回答可）

⑧【アクティブラーニング未導入の方 0 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

⑨【「①効果が大きいと感じる」と答えた方 6 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングの中で、どの要素に効果を感じていますか。（三つまで回答可）

課題やレポートの提出	5 人
コメント・質問の提出および回答	3 人

⑩【実施している方と実施していないが今後は実施しようと思っている方 7 名のみ回答】

- ・今後実施してみたいアクティブラーニングの要素を、三つまであげて下さい。

ブレインストーミング	3 人
反転学習	3 人

⑪【該当者 6 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用するにあたって課題と感じることはありますか。（複数回答可）

授業の進め方の難しさ	6 人
評価の難しさ	4 人

(2)考察と今後の課題

調査結果への評価

入門・共通科目は教員全員（7名）がすでに導入し、専門科目では採用していないのは1名のみである。本学科は少人数の個別指導であり、学生との双方向のやりとりなくしては授業が成立しえない状況となっている。学生の反応も比較的良好、実施の効果があがっていると評価する。

今後の課題

教員のほぼすべてがいわゆる活性化ないしは現状維持をころざしている。ただし、従来は授業中の応答や課題の提出が中心であり、内容によっては授業の進行が単調になりかねないおそれがある。教員の半数は、ブレインストーミングや反転学習の導入を考えている。

将来計画

平成28年度（2016年度）の学科学生は4年生のみとなった。同時に学科専任教員は4名となる。そのうち1名は応用心理学部臨床心理学科の職務を兼任し、かつ十条台キャンパスの勤務に重点が移行する。

学科としては、各教員による授業の実情にあわせてくふうと努力に期待する。特に他学科の履修生や留学生を多く擁する科目については、学生の多様性に配慮する必要がある。

●共通領域部（回答者数：7名）

(1)調査結果の概要

①科目別アクティブラーニング導入の状況

	入門・教養科目	専門・専門関連科目
講義科目	6/8 人	1/1 人
演習科目	3/3 人	0/0 人
実習・実技科目	0/0 人	0/0 人

②アクティブラーニングの要素別導入状況（「ある程度」と「大いに」との合計）

・入門・教養科目

講 義	課題やレポートの提出	4/6 人
	コメント・質問の提出および回答	3/6 人
	発問・応答・挙手を求める	2/6 人
演 習	発問・応答・挙手を求める コメント・質問の提出および回答 グループワーク	2/3 人
実習・実技		0/0 人

・専門・専門関連科目

講 義	発問・応答・挙手を求める コメント・質問の提出および回答 課題やレポートの提出 ディスカッション・ディベート プレゼンテーション	1/1 人
演 習		0/0 人
実習・実技		0/0 人

③【アクティブラーニング導入済の方 8 名のみ回答】

・アクティブラーニングを取り入れているのはなぜですか（複数回答可）。

授業効果が高いと思うから 7 人

一方的な講義だけでは学生が飽きてしまうから 6 人

④【アクティブラーニング導入済の方 8 名のみ回答】

・アクティブラーニングを取り入れている授業における学生の反応についてどのように感じていますか。

積極的に取り組んでいる 6 人

どちらともいえない 2 人

⑤【アクティブラーニング導入済の方 8 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用して学生に対する効果、成果を実感しますか。
効果が大いと感じる 6 人
どちらともいえない 2 人

⑥【アクティブラーニング導入済の方 8 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。
現状のまま 5 人
もっと増やしたい 3 人

⑦【アクティブラーニング未導入の方 3 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用していない理由をお聞かせ下さい（複数回答可）
必要を感じないから 2 人
仕事量が増えそうだから 1 人
本学の学生には向いていないから 1 人

⑧【アクティブラーニング未導入の方 3 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。
採用するつもりはない 2 人
迷っている 1 人

⑨【「①効果が大いと感じる」と答えた方 6 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングの中で、どの要素に効果を感じていますか。（三つまで回答可）
発問・応答・挙手を求める 3 人
課題やレポートの提出 3 人
コメント・質問の提出および回答 3 人

⑩【実施している方と実施していないが今後は実施しようと思っている方 10 名のみ回答】

- ・今後実施してみたいアクティブラーニングの要素を、三つまであげて下さい。
プレゼンテーション 4 人
グループワーク 2 人
フィールドワーク 2 人

⑪【該当者 6 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用するにあたって課題と覚えることはありますか。（複数回答可）
授業の進め方の難しさ 3 人
授業の準備の大変さ 2 人
評価の難しさ 4 人

(2) 考察と今後の課題

調査結果への評価

共通領域科目は 5 つの区分（就業力基礎、社会常識、教養、情報、語学）及び特設科目（留学生対象）から成る。このうち就業力基礎、社会常識、教養区分における講義科目の大半は受講人数が多く、大講義室などを利用している。一方、就業力基礎における演習科目、情報、語学などの科目は人数制限等により少人数クラスを編成している。

調査結果より、AL を採用している科目の割合は、講義科目では 87%、演習科目では 100% であった。これは大学全体の専門・専門関連科目（講義科目 80%、演習科目 95%）と比べて同等以上の割合である。問 3～問 11 に関しては、大学全体の専門関連科目の結果とほぼ同様の傾向がみられる。すなわち、AL を導入している教員はその効果、成果があると感じており、授業中の学生の発言やコメントの提出、質問への回答、課題・レポートの提出などが効果的なようである。

今後の課題

AL を導入している教員はその有効性を実感している一方で、授業の進め方の難しさ、授業の準備の大変さを課題と感じている。共通領域科目における講義科目は受講人数が 100 名以上の科目も多く、また従来の座学（一方向的な知識伝達型講義）形式が適している授業もあると考えられる。教員個人の授業スタイルも含め、それぞれの授業に合った AL の事例を教員相互で共有（情報交換）できる環境が望まれる。

将来計画

現行の教育課程における基礎・教養科目（共通領域科目）を見直し、2017（平成 29）年度から新しい教育課程（新カリキュラム）の実施を予定している。新カリキュラムでは、①「ベーシックスキル」区分を新設し、「スタディスキル」の新規開講、「文章表現演習」「口頭表現演習」の授業内容改訂などにより、初年次教育科目群を充実させ、②キャリアデザイン科目群の再編成に伴い「コミュニケーション演習」の新規開講、などを予定している。これらはいずれも少人数クラスの演習科目であり、授業内でのプレゼンテーションやグループワーク、レポート・論文作成の個別指導などが含まれている。特に「スタディスキル」「文章表現演習」「口頭表現演習」は複数クラスを複数教員で担当するものの授業内容を統一するために共通テキスト（市販のもの）を使用し、各教員が各授業で実施している AL のノウハウなどを互いに共有する仕組み（定期的な担当者会議の開催）などを計画している。

2 - 2 応用心理学部

●福祉心理学科（回答者数：12名）

(1)調査結果の概要

①科目別アクティブラーニング導入の状況

	入門・教養科目	専門・専門関連科目
講義科目	1/1 人	11/12 人
演習科目	0/0 人	8/8 人
実習・実技科目	0/0 人	5/5 人

②アクティブラーニングの要素別導入状況（「ある程度」と「大いに」との合計）

・入門・教養科目

講義	発問・応答・挙手を求める以外すべて	1/1 人
演習		0/0 人
実習・実技		0/0 人

・専門・専門関連科目

講義	コメント・質問の提出および回答	8/11 人
	課題やレポートの提出	6/11 人
	発問・応答・挙手を求める	5/11 人
演習	課題やレポートの提出 ディスカッション・ディベート グループワーク	6/8 人
	発問・応答・挙手を求める コメント・質問の提出および回答	5/8 人
実習・実技	課題やレポートの提出	5/5 人
実習・実技	発問・応答・挙手を求める コメント・質問の提出および回答	4/5 人

③【アクティブラーニング導入済の方 11 名のみ回答】

・アクティブラーニングを取り入れているのはなぜですか（複数回答可）。

授業効果が高いと思うから	9 人
一方的な講義だけでは学生が飽きてしまうから	9 人

④【アクティブラーニング導入済の方 11 名のみ回答】

・アクティブラーニングを取り入れている授業における学生の反応についてどのように感じていますか。

積極的に取り組んでいる	4 人
どちらともいえない	5 人

⑤【アクティブラーニング導入済の方 11 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用して学生に対する効果、成果を実感しますか。

効果が大きいのと感じる 6 人

どちらともいえない 4 人

⑥【アクティブラーニング導入済の方 11 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

現状のまま 4 人

もっと増やしたい 7 人

⑦【アクティブラーニング未導入の方 1 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用していない理由をお聞かせ下さい（複数回答可）

無回答

⑧【アクティブラーニング未導入の方 1 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

無回答

⑨【「①効果が大きいと感じる」と答えた方 6 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングの中で、どの要素に効果を感じていますか。（三つまで回答可）

発問・応答・挙手を求める 3 人

ディスカッション・ディベート 3 人

⑩【実施している方と実施していないが今後は実施しようと思っている方 9 名のみ回答】

- ・今後実施してみたいアクティブラーニングの要素を、三つまであげて下さい。

プレゼンテーション 5 人

ディスカッション・ディベート 5 人

⑪【該当者 11 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用するにあたって課題と覚えることはありますか。（複数回答可）

授業の準備の大変さ 9 人

授業の進め方の難しさ 5 人

設備の不足 5 人

(2)考察と今後の課題

調査結果への評価

大学全体の結果と福祉心理学科の結果を比較して

福祉心理学科の回答数 12 名（専任教員 8 名、非常勤の先生方 3 名）の結果について、専門・専門関連科目の結果について全額結果と比較してみると、実習・実技の体験学習を除いて、取組経験のある教員数（割合）およびその内容は、概ね同様の結果となっている（表 1）。

表1 アクティブラーニング調査結果（専門・専門関連科目 全学科と福祉心理学科）

科目種類	内 容	全学科	福祉心理学科
講 義	課題やレポートの提出	70%	55%
	コメント・質問提出及び回答	71%	73%
	発問・応答・挙手を求める	56%	45%
演 習	発問・応答・挙手を求める	89%	
	課題やレポートの提出	81%	75%
	コメント・質問の提出および回答、プレゼンテーション	69%	62%
実習・実技	課題やレポートの提出	85%	100%
	発問・応答・挙手を求める	73%	80%
	体験学習	62%	*

*地域ボランティアは体験学習とも分類できるので実質 0%ではない。

福祉心理学科の取り組み

ALに学習効果を認め（6名）、もっと増やしたいと考える（7名）教員が半数近くいる。実際にどのように取り組んでいるのか、「東京成徳大学 私のミニ・アクティブラーニング実践記」（企画・IR 室 平成28年3月6日）からまとめてみる。

【講義】

- ①「理解をより深めるために、新聞記事を一緒に読んだり、DVDを見たりして何を感じ、どう考えたかを書く作業を行う」（障害心理学Ⅱ、2年、30名）
- ②「授業終了前10分間を使って学生達を4～6名程度のグループに分け、司会と記録を決めて話し合いを行わせる。記載された内容を整理し、次回の授業の冒頭で紹介し、復習に役立てる」（現代社会と福祉Ⅰ、1年、45名）、（相談援助の基盤と専門職Ⅰ、Ⅱ、1年、25名）、（精神保健福祉相談援助の基盤、1年、20名）、（精神保健福祉援助技術各論、2年、20名）。

【演習】

- ①「対人コミュニケーションが求められる演習の際に学生の了解のもとに演習場面の録画を行い、再生スピードの変更や画像にコメントが入れられるフィードバックに優れたアプリケーションを用いて、映像を編集し上映して指導に役立てる」（精神保健援助技術演習、2年、14名）。
- ②「学びが総合的に理解できるように、福祉現場での体験、演習におけるディスカッション、授業外での課題設定、SNSを活用した学生間の演習内容に関するやりとりの活発化を図る」（福祉心理学演習、3年、7名）。
- ③「グループディスカッションが円滑に出来るように、導入に工夫をし、課題に対する取組を自発的かつ積極的にディスカッションを通じて出来るようにする。さらにその結果を振り返りシートを使って考察できるようにする」（相談援助演習、3年、16名）。
- ④体験活動が重要となるが「ボランティア活動に関する意義や留意点を学修後、共通のボランティア体験参加、各自が独自に行う体験、それらの報告会を実施する」地域ボランティア、1年、22名。

以上の取組例から、福祉心理学科での取組は、学修活動をより主体的かつ能動的なものに促すための内容であり、同時にそれが卒業後の進路（主に福祉現場）に関係して必要となる知識、技術、態度に結びつく内容となっている。特に演習での取組例は3、4年での現場実習に関係することから学生の実態に応じたきめ細かな指導が進められている。

今後の課題

- ①学修への参加状況から、ALに積極的に参加し、取組の効果が上がる学生がいる一方で、活動を苦手に感じている学生も少なくない。個人差に対応した取組の工夫がいっそう必要である。
- ②学生数に対応した携帯型端末やアプリケーションの導入、整備が必要である、また、得られたデータの管理、保管等が課題となっている。

●臨床心理学科（回答者数：11名）

(1)調査結果の概要

①科目別アクティブラーニング導入の状況

	入門・教養科目	専門・専門関連科目
講義科目	2/2 人	10/10 人
演習科目	0/0 人	10/10 人
実習・実技科目	0/0 人	3/3 人

②アクティブラーニングの要素別導入状況（「ある程度」と「大いに」との合計）

・入門・教養科目

講 義	コメント・質問の提出および回答	2/2 人
	課題やレポートの提出	2/2 人
演 習		0/0 人
実習・実技		0/0 人

・専門・専門関連科目

講 義	コメント・質問の提出および回答	8/10 人
	課題やレポートの提出	7/10 人
演 習	発問・応答・挙手を求める 課題やレポート提出	8/10 人
	コメント・質問の提出および回答	7/10 人
	ブレインストーミング プレゼンテーション グループワーク	6/10 人
実習・実技	発問・応答・挙手を求める プレゼンテーション グループワーク	3/3 人

③【アクティブラーニング導入済の方 11 名のみ回答】

・アクティブラーニングを取り入れているのはなぜですか（複数回答可）。

授業効果が高いと思うから	10 人
一方的な講義だけでは学生が飽きてしまうから	9 人

④【アクティブラーニング導入済の方 11 名のみ回答】

・アクティブラーニングを取り入れている授業における学生の反応についてどのように感じていますか。

積極的に取り組んでいる	6 人
どちらともいえない	4 人

⑤【アクティブラーニング導入済の方 11 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用して学生に対する効果、成果を実感しますか。

効果が大きいと感じる 5 人

どちらともいえない 5 人

⑥【アクティブラーニング導入済の方 11 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

現状のまま 5 人

もっと増やしたい 6 人

⑦【アクティブラーニング未導入の方 0 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用していない理由をお聞かせ下さい（複数回答可）

⑧【アクティブラーニング未導入の方 0 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

⑨【「①効果が大きいと感じる」と答えた方 17 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングの中で、どの要素に効果を感じていますか。（三つまで回答可）

コメント・質問の提出 3 人

グループワーク 3 人

⑩【実施している方と実施していないが今後は実施しようと思っている方 9 名のみ回答】

- ・今後実施してみたいアクティブラーニングの要素を、三つまであげて下さい。

グループワーク 4 人

反転学習 4 人

⑪【該当者 9 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用するにあたって課題と覚えることはありますか。（複数回答可）

授業準備の大変さ 7 人

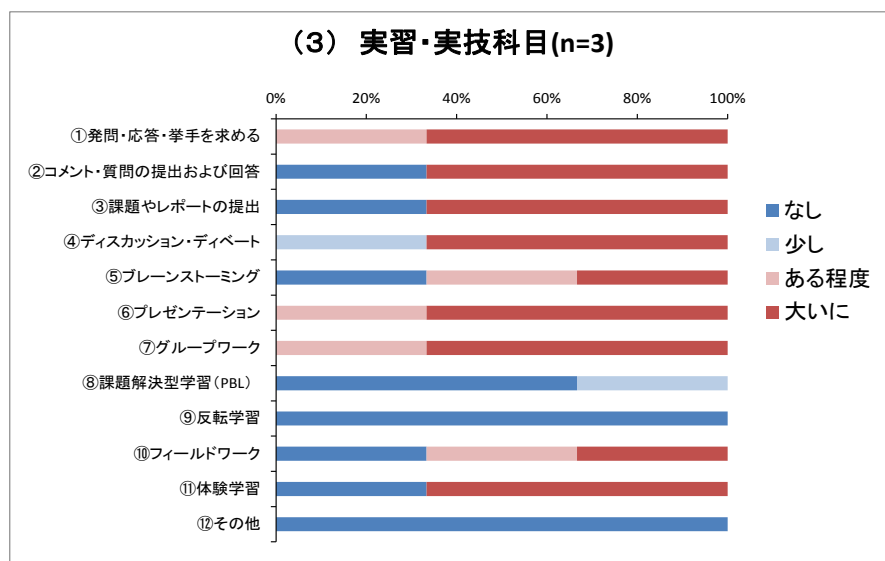
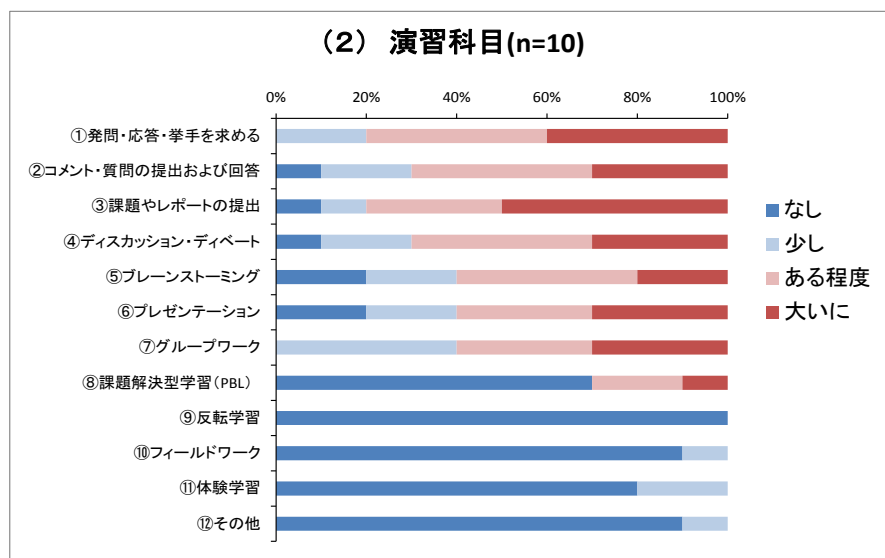
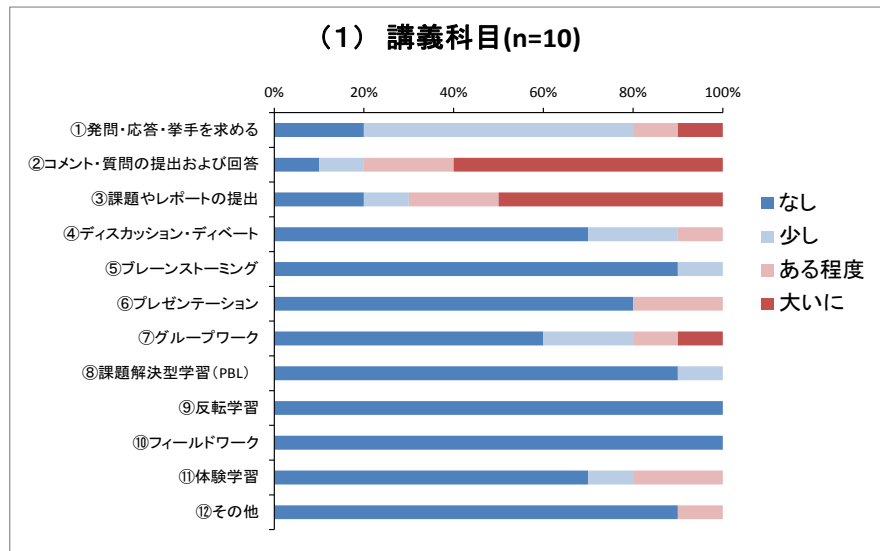
授業の進め方の難しさ 8 人

(2)考察と今後の課題

調査結果の整理

問 2 の整理

1. 入門・共通科目（図→なし）
2. 専門・専門関連科目（専門のみ図を作成）



調査結果への評価

「アクティブラーニングの項目別状況（問 2）」について、専門のうち科目（講義/演習/実習）によって、実践されている AL に差異が見られた。具体的には、「(1)講義科目」では、8 割以上（少し～大いに）の教員が①発問・応答・挙手を求める、②コメント・質問の提出および回答、③課題やレポートの提出といった基本的な AL の実施、「(2)演習科目」では、8 割以上の教員が、基本的な AL に加え、④ディスカッション・ディベート、⑤ブレインストーミング、⑥プレゼンテーション、⑦グループワークといったより多くの取り組みの実施、「(3)実習・実技科目」では、⑩フィールドワーク、⑪体験学習の実施していることが明らかになった。⑧課題解決型学習、⑨反転学習については、実施報告がわずかであった。⑧課題解決型学習の実施の有無は教員間で開きがみられ（なし→7 割、ある程度＋大いに→3 割）、⑨反転学習については実施報告が全く見られなかった。

「アクティブラーニングの取り入れている理由（問 3）」については、授業効果の高さ（10 票）、一方的な講義の防止（9 票）が理由として挙げられた。「学生の反応（問 4）」については、積極的（6 票）、どちらでもない（4 票）、「効果の実感（問 5）」については、効果大（5 票）、どちらともいえない（5 票）との回答が見られた。これらの結果から、本学科の教員は、AL に対しておおむね肯定的にとらえていることが明らかになった。

今後の課題

⑧課題解決型学習と⑨反転学習については、実施報告が「少ない」もしくは「なし」であったため、今後実施する余地があると考えられる。アンケートの中でも、本学科教員は、「実施してみたいアクティブラーニングの要素（問 10）」として、反転学習（4 票最多票）と課題解決型学習（3 票）を挙げており、興味関心の高さがうかがえる。しかしながら、「採用にするにあたっての困難さ（問 11）」に対して、②進め方の難しさ（最多票 8 票）や①授業準備の大変さ（7 票）のような意見が挙がっていることから、これらのハードルを低減する援助策が必要であると考えられる。

将来計画

- ①「スクールカウンセリング入門」等を中心に、地域（小中学校）と連携した、実習の機会を充実させる。
- ②実習や演習において、学生が積極的に参加できるようなグループワークの機会を増やす。など、現在の授業の中で、各教員が AL 的要素を意識的に強めていくことが期待される。
- ③講義形式の授業においても、「講義パート＋課題パート（演習パート）」を組み合わせた形式を工夫する、あるいは、学科内において特定の科目を選び、部分的に反転学習を組み入れることも考えられる。ただ、現時点では各先生の試みと、結果の情報交換が計画されるが、学科内において特に組織的な計画はない。

●健康・スポーツ心理学科（回答者数：11名）

(1)調査結果の概要

①科目別アクティブラーニング導入の状況

	入門・教養科目	専門・専門関連科目
講義科目	1/2 人	7/8 人
演習科目	1/2 人	7/8 人
実習・実技科目	2/4 人	8/9 人

②アクティブラーニングの要素別導入状況（「ある程度」と「大いに」との合計）

・入門・教養科目

講義	コメント・質問の提出および回答 ディスカッション・ディベート	1/1 人
演習	発問・応答・挙手を求める コメント・質問の提出および回答 課題やレポートの提出 ディスカッション・ディベート プレゼンテーション 課題解決型学習（PBL）、体験学習	1/1 人
実習・実技	グループワーク	2/2 人

・専門・専門関連科目

講義	コメント・質問の提出および回答	6/7 人
	課題やレポートの提出	5/7 人
	発問・応答・挙手を求める	3/7 人
演習	発問・応答・挙手を求める プレゼンテーション	7/7 人
	ディスカッション・ディベート グループワーク	6/7 人
	課題やレポートの提出 ブレインストーミング	5/7 人
実習・実技	課題やレポートの提出	6/8 人
	コメント・質問の提出および回答	5/8 人
	発問・応答・挙手を求める 体験学習	4/8 人

③【アクティブラーニング導入済の方 10 名のみ回答】

・アクティブラーニングを取り入れているのはなぜですか（複数回答可）。

授業効果が高いと思うから	7 人
一方的な講義だけでは学生が飽きてしまうから	9 人

④【アクティブラーニング導入済の方 10 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを取り入れている授業における学生の反応についてどのように感じていますか。

積極的に取り組んでいる	5 人
どちらともいえない	5 人

⑤【アクティブラーニング導入済の方 10 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用して学生に対する効果、成果を実感しますか。

効果が大きいと感じる	5 人
どちらともいえない	4 人

⑥【アクティブラーニング導入済の方 10 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

現状のまま	5 人
もっと増やしたい	5 人

⑦【アクティブラーニング未導入の方 1 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用していない理由をお聞かせ下さい（複数回答可）

仕事の量が増えそうだから	1 人
本学の学生には向いていないから	1 人

⑧【アクティブラーニング未導入の方 1 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

迷っている	1 人
-------	-----

⑨【「①効果が大きいと感じる」と答えた方 5 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングの中で、どの要素に効果を感じていますか。（三つまで回答可）

課題やレポートの提出	2 人
グループワーク	2 人

⑩【実施している方と実施していないが今後は実施しようと思っている方 9 名のみ回答】

- ・今後実施してみたいアクティブラーニングの要素を、三つまであげて下さい。

ディスカッション・ディベート	3 人
ブレインストーミング、プレゼンテーション、反転学習、フィールドワーク、体験学習	3 人

⑪【該当者 10 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用するにあたって課題と感じることはありますか。（複数回答可）

授業の進め方の難しさ	6 人
授業の準備の大変さ、評価の難しさ	4 人

(2) 考察と今後の課題

調査結果への評価

- ①回答者 11 名中、入門・共通科目（4 名）では 50%、専門・専門関連科目（9 名）では、8 名を超えた 88%以上の教員が AL を採用。
- ②AL 採用の理由は、「学生を飽きさせない」「授業効果の高さ」としている。
- ③AL の今後の取り組みについて、「積極的に取り組んでいる」一方で、「どちらともいえない」が半々。
- ④AL の効果について、「効果が大きいと感じている」と「どちらともいえない」が半々。
- ⑤今後、どのように考えているかについて、「もっと増やしたい」という教員がいると同時に「現状のまま」と考えている者もいる。
- ⑥採用していない 1 名の理由は、「仕事量が増えそう」「本学の学生に向いていない」こととしている。今後の導入の可能性については「迷っている」ようである。
- ⑦効果の大きい要素として、「課題やレポートの提出」「グループワーク」であった。採用のしやすさも一要因かもしれない。
- ⑧今後実施しようと考えている AL の要素として、「ディスカッション・ディベート」であり、次いで「ブレインストーミング」「プレゼンテーション」「反転学習」「フィールドワーク」であった。

今後の課題

- ①総じて、AL を積極的に採用している教員とそうでない教員との違いは、「学生を飽きさせない」「授業効果の高さ」を実感しているか、「仕事量が増える」「授業の進め方が難しい」「授業の準備が大変」「評価の難しさ」などを懸念していることに由来していることが推察される。このことを解消することが求められる。
- ②講義、演習、実技・実習科目など授業科目により AL の活用状況も共通性のあるもの（課題やレポートの提出、発問・応答・挙手を求める）と固有のもの（ブレインストーミング、体験学習など）があり、授業の目標に合致した AL の利用が検討されることが必要かと思われる。

将来計画

- ①採用実績のある教員においては、上記課題を開示する機会を提供し、AL の共通理解を図る。
- ②学生の学びを通じた学修効果を促進するためには、学科として AL の積極的な採用と展開をしていく必要がある。そのために、採用していない教員においては、最低 1 授業 1AL 要素の実施を試みるよう促したい。
- ③AL 採用から評価までの事例について、FD 実施を提案したい。

2-3 子ども学部

●子ども学科（回答者数：29名）

(1)調査結果の概要

①科目別アクティブラーニング導入の状況

	入門・教養科目	専門・専門関連科目
講義科目	7/8 人	9/10 人
演習科目	5/5 人	24/24 人
実習・実技科目	0/0 人	4/4 人

②アクティブラーニングの要素別導入状況（「ある程度」と「大いに」との合計）

・入門・教養科目

講 義	課題やレポートの提出	7/7 人
	コメント・質問の提出および回答	6/7 人
	発問・応答・挙手を求める	5/7 人
演 習	課題やレポートの提出	5/5 人
	課題解決型学習（PBL） グループワーク プレゼンテーション ディスカッション・ディベート	4/4 人
	実習・実技	0/0 人

・専門・専門関連科目

講 義	課題やレポートの提出	8/9 人
	コメント・質問の提出および回答 発問・応答・挙手を求める プレゼンテーション	7/7 人
	発問・応答・挙手を求める	22/24 人
演 習	グループワーク	20/20 人
	課題やレポートの提出	18/24 人
	コメント・質問の提出および回答	18/24 人
実習・実技	体験学習 課題やレポートの提出 発問・応答・挙手を求める コメント・質問の提出および回答	4/4 人

③【アクティブラーニング導入済の方 29 名のみ回答】

・アクティブラーニングを取り入れているのはなぜですか（複数回答可）。

授業効果が高いと思うから 24 人

一方的な講義だけでは学生が飽きてしまうから 21 人

④【アクティブラーニング導入済の方 29 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを取り入れている授業における学生の反応についてどのように感じていますか。

積極的に取り組んでいる	24 人
どちらともいえない	5 人

⑤【アクティブラーニング導入済の方 29 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用して学生に対する効果、成果を実感しますか。

効果が大きいと感じる	22 人
どちらともいえない	5 人

⑥【アクティブラーニング導入済の方 29 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

現状のまま	23 人
もっと増やしたい	6 人

⑦【アクティブラーニング未導入の方 0 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用していない理由をお聞かせ下さい（複数回答可）

⑧【アクティブラーニング未導入の方 0 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

⑨【「①効果が大きいと感じる」と答えた方 22 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングの中で、どの要素に効果を感じていますか。（三つまで回答可）

プレゼンテーション	11 人
グループワーク	15 人
コメント・質問の提出および回答	8 人

⑩【実施している方と実施していないが今後は実施しようと思っている方 29 名のみ回答】

- ・今後実施してみたいアクティブラーニングの要素を、三つまであげて下さい。

プレゼンテーション	10 人
グループワーク	10 人

⑪【該当者 26 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用するにあたって課題と感じることはありますか。（複数回答可）

授業の準備の大変さ	17 人
設備の不足	14 人

(2)考察と今後の課題

調査結果への評価

子ども学部では、ほぼ全ての学生が教員免許または保育士資格の取得を希望しており、将来に備えた実践的な授業が数多く実施されている。ほとんどの授業は、AL といった授業方法の工夫を意識的に導入してきたかどうかに関わらず、学生主体であり、教員と学生、また学生同士のコミュニケーションを大切に展開されてきた。したがって本調査でも、回答を寄せた教員全員が AL を導入していると回答しており、それは「講義科目」「演習科目」「実習・実技科目」、また「入門・共通科目」「専門・専門関連科目」で違いはみられない。導入している理由としては、「授業効果が高いと思われる」こと、また「一方的な講義だけでは学生が飽きてしまう」ことが挙げられ、学生も積極的に取り組んでいると評価されている。子ども学部において、AL はすでに深く定着しているといえる。

今後の課題

AL の導入についての肯定的な評価がある一方で、今後の取り組みに関する問に対しては、「もっと増やしたい」という声はあまり多くはなく、「現状のまま」という答えが 8 割近くを占めた。その背景として、6 割近くの教員が「授業の準備の大変さ」を、半数近くの教員が「設備の不足」を AL 実施上の課題として挙げており、AL の効果は確認されつつも、現状としてその限界も教員によって認識されていることが確認された。大人数の授業での出席・提出物の管理や、実技実習を伴う授業の教材類の準備・片付など、AL を実施するにあたっての担当教員の負担は極めて大きいことがわかる。

加えて、AL について、担当教員はその効果を感じているものの、学修の成果が例えば就職試験の筆記や面接、模擬授業といった面に効果を発揮しているかどうかなどは、本調査からは判断できない。子ども学部の事例に限らず、AL 一般の課題として、それが一時的な体験活動に留まらず、学生のより深い学びに結びつけられているかどうか挙げられる。子ども学部においても、その点は同じく課題として浮かび上がる。

将来計画

子ども学部では、2011 年度入学生からの学生定員増を受け、限られた教員数での学生へのきめ細やかな指導の確保に工夫を凝らしている。受講者が 100 名を超える授業も多く、それらの中には必ずしも AL に向いているとは思われない場合もあるが、それでも発問／応答や、コメントの提出などを通して、学生との双方向性を大切にし、対話の機会を設けるよう心掛けている。教員や保育士を目指す学生たちにとって、プレゼンテーションやグループワークといった AL は、欠かすことができない必須の学習活動であると考えられる。今後は、さらに少人数での授業を可能にするなど、授業形態を工夫するとともに、教員の準備の負担を軽減するため、web を活用した授業方法などについても検討していきたい。また、AL を通した体験が、確実に学生の知識や学ぶ態度として定着するよう、AL の方法とその実証的成果についても引き続き検討を加えていきたい。

2 - 4 経営学部

●経営学科（回答者数：19名）

(1)調査結果の概要

①科目別アクティブラーニング導入の状況

	入門・教養科目	専門・専門関連科目
講義科目	6/6 人	9/11 人
演習科目	5/5 人	8/9 人
実習・実技科目	0/0 人	2/2 人

②アクティブラーニングの要素別導入状況（「ある程度」と「大いに」との合計）

・入門・教養科目

講 義	課題やレポートの提出	4/6 人
	発問・応答・挙手を求める コメント・質問の提出および回答	3/6 人
演 習	グループワーク 課題やレポートの提出	5/5 人
	課題解決型学習（PBL） プレゼンテーション	4/4 人
実習・実技		0/0 人

・専門・専門関連科目

講 義	課題やレポートの提出	5/9 人
	コメント・質問の提出および回答	4/9 人
	発問・応答・挙手を求める プレゼンテーション	3/9 人
演 習	発問・応答・挙手を求める	8/8 人
	課題やレポートの提出	7/8 人
	コメント・質問の提出および回答 プレゼンテーション	6/8 人
実習・実技	体験学習、課題やレポートの提出 発問・応答・挙手を求める コメント・質問の提出および回答 プレゼンテーション	1/2 人

③【アクティブラーニング導入済の方 17 名のみ回答】

・アクティブラーニングを取り入れているのはなぜですか（複数回答可）。

授業効果が高いと思うから

15 人

一方的な講義だけでは学生が飽きてしまうから

11 人

④【アクティブラーニング導入済の方 17 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを取り入れている授業における学生の反応についてどのように感じていますか。

積極的に取り組んでいる	7 人
どちらともいえない	6 人

⑤【アクティブラーニング導入済の方 17 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用して学生に対する効果、成果を実感しますか。

効果が大きいと感じる	9 人
どちらともいえない	7 人

⑥【アクティブラーニング導入済の方 17 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

現状のまま	10 人
もっと増やしたい	7 人

⑦【アクティブラーニング未導入の方 2 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用していない理由をお聞かせ下さい（複数回答可）

無回答

⑧【アクティブラーニング未導入の方 2 名のみ回答】

- ・アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

無回答

⑨【「①効果が大きいと感じる」と答えた方 22 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングの中で、どの要素に効果を感じていますか。（三つまで回答可）

課題やレポートの提出	5 人
体験学習	4 人

⑩【実施している方と実施していないが今後は実施しようと思っている方 19 名のみ回答】

- ・今後実施してみたいアクティブラーニングの要素を、三つまであげて下さい。

発問・応答・挙手を求める	5 人
課題やレポートの提出	4 人
プレゼンテーション	4 人
課題解決型学習（PBL）	4 人

⑪【該当者 16 名のみ回答】

- ・アクティブラーニングを採用するにあたって課題と覚えることはありますか。（複数回答可）

授業の進め方の難しさ	8 人
評価の難しさ	5 人

(2)考察と今後の課題

調査結果への評価

配布枚数 34 に対して 19 の回収と回収率が 56%と低いため評価するのは困難であるが、全体との比較を行ってみた。

- ①AL 導入授業の学生の反応について、「積極的に取り組んでいる」の回答、および学生に対する効果について「効果が大きいと感じる」とする回答の比率が他学部に比べやや低いように見える。
- ②今後実施してみたい AL の要素について、他学部にはグループワーク、反転学習、ディスカッション・ディベート、フィールドワークがあったが経営学部にはなかった。

今後の課題

従来より、授業アンケートを行い、各教師が授業の効果を上げるよう FD 研修を行っているところであるが、その際に AL という視点を取り入れることが課題と考えられる。

将来計画

AL の視点から FD 研修を見直し、より効果的な授業が行われるよう改善することとしたい。このため、今年度中にこの観点からの FD 研修を行うとともに問題点を把握した上で継続的に実施していくことを考えたい。

3 参考「教育歴別の集計結果」

ALの採用率や採用するAL要素には、年齢や教育歴の違いによって差異が生じる可能性が考えられる。そこで、アンケート結果について、教育歴別の集計と考察を行った。以下はその概要等である。

3-1 結果の概要

ALの採用状況

まず、ALを採用している教員数、ALを採用している科目数を、教育歴別に見ると以下のようなになる(①)。回答数が少ないのでまずは実際の人数、科目数を見た。その上で、比率に換えて比較した(②、③)。

②は、入門・教養科目と専門・専門関連科目のそれぞれについて、講義、演習、実習・実技の各授業形態でALを採用している教員の比率を、教育歴別に整理したものである。どの教育歴でもALの採用率は高いレベルにあり、教育歴の違いで大きな差異は生じていないと言える。

同様に③は、入門・教養科目と専門・専門関連科目のそれぞれについて、講義、演習、実習・実技の各授業形態でALが採用されている科目の比率を、教育歴別に整理したものである。ここでも、教育歴の違いによって大きな差異は生じていないと言える。

ALの要素別の採用状況

ALの採用の度合いについては、教育歴別の違いによって大きな差異は生じないことが確認できた。では、採用するAL要素の内容についてはどうであろうか？

ここでも入門・教養科目、専門・専門関連科目のそれぞれについて、講義、演習、実習・実技の各授業形態で、AL要素としてどのようなものが採用されているかを教育歴別に整理してみた(④)。

結果は、領域別、授業形態別の違いに関係なく、また、教育歴の長短に係わらず、ほとんどの科目で「発問・応答・挙手を求める」、「コメント・質問の提出および回答」、「課題やレポートの提出」が上位3位を占めている。教育歴の違いは、教育方法としてのALの活用のあり方に、ほとんど影響を与えていないものと言える。

3-2 考察と今後の課題

調査結果への評価

このような結果になった背景としては、以下の事情が考えられる。

- ①これらの要素はALとしては初歩的で導入しやすい方法であるので、教育歴の長短にかかわらず最も採用されたと言えよう。
- ②ALという教育方法は従来からも知られていたが、これを広く推進しようという動きが広がったのは昨今である。そのため、教育歴の長短を問わず多くの教員が、ALの高度な方法には未だ十分習熟していない可能性が高いと思われる。
- ③少子化の進行により、十分な知識を身につけないまま入学してくる学生が一定数いることは否めず、高度なAL要素を広く授業の中に取り入れることが難しい現状もあると思われる。

課題と将来計画

先にも述べたが、ALは学生の能動的な学修を前提に、単なる知識の詰め込みではなく、知識を使って新たな問題を発見し、それを解決する高度な思考力などを育成することを目的とする教育方法である。

それだけに、初歩的な要素に加えて高度な AL 要素をさらに取り入れていくことは欠かせない。

そのためには、そのねらいや効果的な授業方法について、教育歴の違いを超えて多くの教員がさらに理解を深めスキルを磨くことが必要である。ここでも、冒頭の「大学全体の結果と考察」の課題と将来計画に対して、教育歴の違いを超えて多くの教員が取り組むことが必要と言えよう。

①科目別アクティブラーニング導入の状況（左：教員数、右：科目数）

【教育歴 2 年未満＋5 年未満】

	入門・教養科目		専門・専門関連科目	
講義科目	11/13 人	18/20 科目	16/17 人	32/36 科目
演習科目	8/8 人	12/12 科目	23/23 人	45/45 科目
実習・実技科目	1/1 人	2/2 科目	10/10 人	15/15 科目

【教育歴 5～10 年未満】

	入門・教養科目		専門・専門関連科目	
講義科目	4/4 人	8/8 科目	16/21 人	32/49 科目
演習科目	4/4 人	7/7 科目	13/13 人	26/28 科目
実習・実技科目	0/0 人	0/0 科目	4/4 人	5/5 科目

【教育歴 10～20 年未満】

	入門・教養科目		専門・専門関連科目	
講義科目	13/14 人	29/31 科目	15/15 人	28/32 科目
演習科目	4/4 人	8/8 科目	17/18 人	39/42 科目
実習・実技科目	1/1 人	0/0 科目	5/5 人	7/7 科目

【教育歴 20 年以上】

	入門・教養科目		専門・専門関連科目	
講義科目	11/13 人	16/19 科目	26/29 人	50/60 科目
演習科目	9/10 人	29/31 科目	31/32 人	64/66 科目
実習・実技科目	1/4 人	1/8 科目	7/8 人	10/13 科目

②AL 採用教員の比率

	入門・教養科目 (講義、演習、実習・実技)	専門・専門関連科目 (講義、演習、実習・実技)
2年未満＋5年未満	85～100%	94～100%
5年～10年未満	(100%) ※4人	76～100%
10年～15年未満	93～ (100%)	94～100%
20年以上	90%	88～97%

③AL 採用科目の比率

	入門・教養科目 (講義、演習、実習・実技)	専門・専門関連科目 (講義、演習、実習・実技)
2年未満+5年未満	90～100%	89～100%
5年～10年未満	(100%) ※7～8人	65～100%
10年～15年未満	94～ (100%) ※8人	88～100%
20年以上	84～94%	77～97%

④アクティブラーニングの要素別導入状況 (「ある程度」と「大いに」との合計の上位)

【教育歴2年未満+5年未満】

・入門・教養科目

講義	コメント・質問の提出および回答	9/11人
	発問・応答・挙手を求める	6/11人
	課題やレポートの提出	
演習	発問・応答・挙手を求める	6/8人
	コメント・質問の提出および回答	
	課題やレポートの提出	
	グループワーク	
実習・実技		

・専門・専門関連科目

講義	コメント・質問の提出および回答	12/16人
	課題やレポートの提出	10/16人
	発問・応答・挙手を求める	8/16人
演習	発問・応答・挙手を求める	20/23人
	課題やレポートの提出	18/23人
	コメント・質問の提出および回答	16/23人
	ディスカッション・ディベート	
	プレゼンテーション	
実習・実技	発問・応答・挙手を求める	9/10人
	コメント・質問の提出および回答	
	課題やレポートの提出	

【教育歴 5～10 年未満】

・ 入門・教養科目

講義	コメント・質問の提出および回答	2/4人
	課題やレポートの提出	
	発問・応答・挙手を求める	1/4人
演習	発問・応答・挙手を求める	4/4人
	課題やレポートの提出	
	コメント・質問の提出および回答	3/4人
	ディスカッション・ディベート	
	プレゼンテーション	
	グループワーク	
	課題解決型学習	
実習・実技		

・ 専門・専門関連科目

講義	コメント・質問の提出および回答	12/16 人
	課題やレポートの提出	
	発問・応答・挙手を求める	8/16 人
演習	発問・応答・挙手を求める	12/13 人
	課題やレポートの提出	10/13 人
	プレゼンテーション	9/13 人
	グループワーク	
実習・実技	課題やレポートの提出	4/4 人
	発問・応答・挙手を求める	3/4 人
	コメント・質問の提出および回答	
	プレゼンテーション	
	グループワーク	3/4 人
	フィールドワーク	
	体験学習	

【教育歴 10～20 年未満】

・ 入門・教養科目

講義	課題やレポートの提出	12/13人
	発問・応答・挙手を求める	
	コメント・質問の提出および回答	6/13人
	プレゼンテーション	
演習	課題やレポートの提出	4/4人
	プレゼンテーション	3/4人
	課題解決型学習	
実習・実技		

・専門・専門関連科目

講義	課題やレポートの提出	11/15人
	コメント・質問の提出および回答	10/15人
	発問・応答・挙手を求める	7/15人
演習	発問・応答・挙手を求める	14/17人
	課題やレポートの提出	
	コメント・質問の提出および回答 プレゼンテーション	11/17人
実習・実技	課題やレポートの提出	4/5人
	発問・応答・挙手を求める	3/5人
	コメント・質問の提出および回答	
	ディスカッション・ディベート 体験学習	

【教育歴 20 年以上】

・入門・教養科目

講義	コメント・質問の提出および回答	8/11人
	課題やレポートの提出	
	発問・応答・挙手を求める	6/11人
演習	課題やレポートの提出	8/9人
	発問・応答・挙手を求める	7/9人
	コメント・質問の提出および回答 プレゼンテーション	6/9人
実習・実技		

・専門・専門関連科目

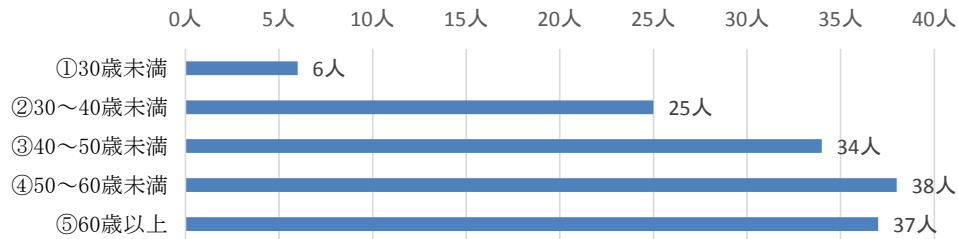
講義	課題やレポートの提出	19/26人
	発問・応答・挙手を求める	18/26人
	コメント・質問の提出および回答	17/26人
演習	発問・応答・挙手を求める	29/31人
	課題やレポートの提出	26/31人
	コメント・質問の提出および回答	23/31人
実習・実技	課題やレポートの提出	5/7人
	発問・応答・挙手を求める	4/7人
	コメント・質問の提出および回答	

Ⅲ 資 料

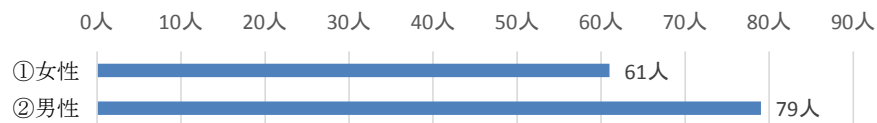
1 大学全体の集計結果（回答数表示）

●「あなたのこと」を教えてください。（ n = 400 ）

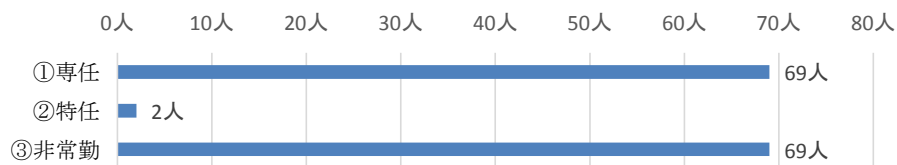
(1)年齢



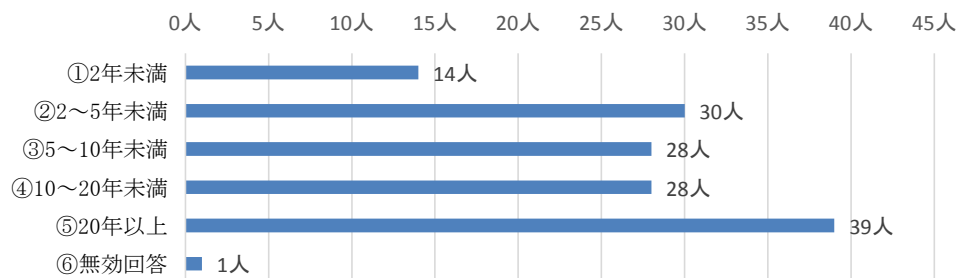
(2)性別



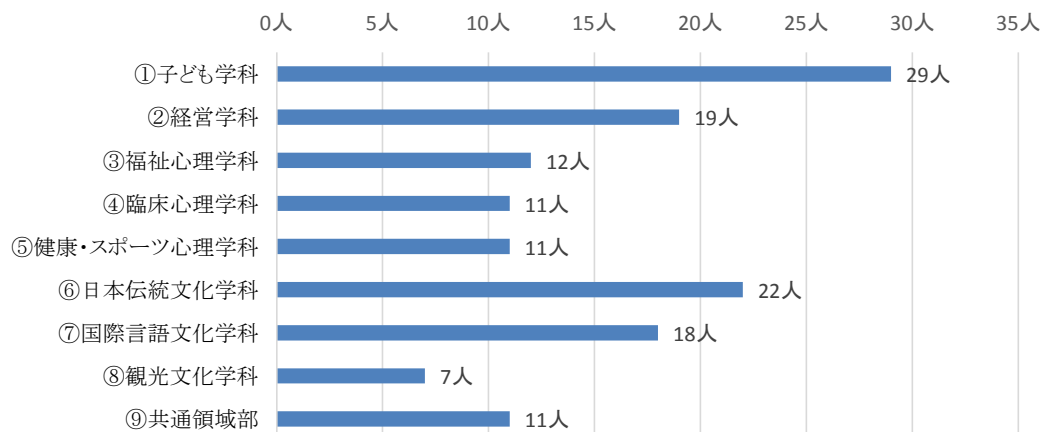
(3)勤務形態



(4)大学での教育歴（無効回答1名）



(5)所属



●今年度後期にご担当の授業科目についてお答え下さい。

(n = 140)

問1

以下の授業科目のそれぞれで、アクティブラーニングを採用している科目数はどれくらいありますか。

(1) 入門・教養科目/共通領域

	担当している人数	アクティブラーニング採用人数	割合
講義科目	44人	39人	89%
演習科目	27人	25人	93%
実習・実技科目	5人	3人 (内1名科目数不明)	60%

・講義科目

【科目合計】

アクティブラーニングを採用している科目数
担当している科目数
71
78
割合 = 91%

【人数】

アクティブラーニング採用科目数	7科目							-
	6科目						-	
	5科目					2	-	-
	4科目				2	-	-	-
	3科目			3	1	-	-	-
	2科目		10	-	-	-	-	-
	1科目	21	-	-	-	-	-	-
	0科目	96	4	1	-	-	-	-
		0科目	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目

担当している科目数

担当している科目数

・演習科目

【科目合計】

アクティブラーニングを採用している科目数
担当している科目数
56
60
割合 = 93%

【人数】

アクティブラーニング採用科目数	7科目							-
	6科目						2	
	5科目					-	-	-
	4科目				2	-	-	-
	3科目			3	-	-	-	-
	2科目		9	-	-	-	-	-
	1科目	9	-	-	-	-	-	-
	0科目	113	-	2	-	-	-	-
		0科目	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目

担当している科目数

担当している科目数

・実習/実技科目

【科目合計】

アクティブラーニングを採用している科目数
担当している科目数
3
10
割合 = 30%

【人数】 (科目数不明2名)

アクティブラーニング採用科目数	7科目								-
	6科目							-	
	5科目						-	-	-
	4科目					-	-	-	-
	3科目				-	-	-	-	-
	2科目			1	-	-	-	-	-
	1科目		-	1	-	-	-	-	-
	0科目	133	2	-	-	1	-	-	-
		0科目	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目

担当している科目数

担当している科目数

(2) 専門・専門関連科目/専門領域

	担当している人数	アクティブラーニング採用人数	割合
講義科目	82人	73人	89%
演習科目	86人	84人（内1名科目数不明）	98%
実習・実技科目	27人	26人	96%

・講義科目

【科目合計】

アクティブラーニングを採用している科目数
担当している科目数
142
177
割合 = 80%

【人数】（科目数不明1名）

アクティブラーニング採用科目数	7科目							1
	6科目						2	-
	5科目					1	-	-
	4科目				5	-	-	-
	3科目			5	2	-	-	-
	2科目		15	3	1	-	-	1
	1科目	33	2	1	1	-	-	-
	0科目	57	4	3	2	-	-	-
		0科目	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目

担当している科目数

・演習科目

【科目合計】

アクティブラーニングを採用している科目数
担当している科目数
174
183
割合 = 95%

【人数】（科目数不明1名）

7科目								2
6科目							1	
5科目						2	-	-
4科目					5	-	-	-
3科目				13	-	-	-	-
2科目			25	-	-	-	-	-
1科目		32	2	1	-	-	-	-
0科目	53	1	2	-	-	-	-	-
	0科目	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目

担当している科目数

・実習/実技科目

【科目合計】

アクティブラーニングを採用している科目数
担当している科目数
37
40
割合 = 93%

【人数】（科目数不明2名）

アクティブラーニング採用科目数	7科目							-
	6科目						-	
	5科目					-	-	-
	4科目				1	-	-	-
	3科目			-	1	-	-	-
	2科目		6	-	-	-	-	-
	1科目	18	-	-	-	-	-	-
	0科目	11	-	1	-	-	-	-
		0科目	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目

担当している科目数

問2

アクティブラーニングの要素としては、以下の各項目をそれぞれの程度導入しています

※複数の科目を担当している場合は、それらを全体的に見た結果を選択

(1) 入門・教養科目/共通領域

① 講義科目

	なし	少し	ある程度	大いに	無効回答
①発問・応答・挙手を求める	2人	17人	13人	6人	1人
②コメント・質問の提出および回答	3人	10人	10人	15人	1人
③課題やレポートの提出	3人	7人	14人	14人	1人
④ディスカッション・ディベート	23人	2人	12人	1人	1人
⑤ブレインストーミング	24人	6人	8人	0人	1人
⑥プレゼンテーション	20人	7人	7人	4人	1人
⑦グループワーク	24人	6人	4人	4人	1人
⑧課題解決型学習（PBL）	23人	7人	5人	3人	1人
⑨反転学習	28人	5人	4人	1人	1人
⑩フィールドワーク	31人	4人	0人	2人	2人
⑪体験学習	27人	4人	4人	2人	2人
⑫その他	34人	0人	2人	1人	2人

※その他具体的内容

日本人学生、先生方へのインタビュー（相手を探し、頼み、実施、レポート）
 新聞への投書
 外部の作文コンクール、スピーチコンテストに応募、年賀状を書く等
 授業の中で学生の作品を2～3回添削指導する、学生作品の展示

（ n = 39 ）

② 演習科目

	なし	少し	ある程度	大いに	無効回答
①発問・応答・挙手を求める	1人	6人	7人	11人	0人
②コメント・質問の提出および回答	3人	6人	5人	11人	0人
③課題やレポートの提出	2人	1人	9人	13人	0人
④ディスカッション・ディベート	6人	3人	11人	5人	0人
⑤ブレインストーミング	7人	9人	4人	5人	0人
⑥プレゼンテーション	3人	6人	4人	11人	1人
⑦グループワーク	6人	3人	4人	12人	0人
⑧課題解決型学習（PBL）	8人	2人	6人	9人	0人
⑨反転学習	15人	4人	6人	0人	0人
⑩フィールドワーク	21人	2人	0人	2人	0人
⑪体験学習	16人	1人	3人	5人	0人
⑫その他	23人	0人	1人	1人	0人

※その他具体的内容

作品制作、鑑賞、活用

（ n = 25 ）

③ 実習・実技科目

	なし	少し	ある程度	大いに	無効回答
①発問・応答・挙手を求める	0人	2人	1人	0人	0人
②コメント・質問の提出および回答	1人	2人	0人	0人	0人
③課題やレポートの提出	1人	1人	0人	1人	0人
④ディスカッション・ディベート	2人	1人	0人	0人	0人
⑤ブレインストーミング	2人	0人	1人	0人	0人
⑥プレゼンテーション	2人	0人	1人	0人	0人
⑦グループワーク	0人	0人	2人	1人	0人
⑧課題解決型学習（PBL）	0人	1人	1人	1人	0人
⑨反転学習	2人	1人	0人	0人	0人
⑩フィールドワーク	3人	0人	0人	0人	0人
⑪体験学習	2人	0人	1人	0人	0人
⑫その他	3人	0人	0人	0人	0人

※その他具体的内容

(n = 3)

(2) 専門・専門関連科目/専門領域

① 講義科目

	なし	少し	ある程度	大いに	無効回答
①発問・応答・挙手を求める	2人	30人	17人	24人	0人
②コメント・質問の提出および回答	6人	16人	19人	32人	0人
③課題やレポートの提出	8人	13人	23人	29人	0人
④ディスカッション・ディベート	33人	20人	15人	5人	0人
⑤ブレインストーミング	48人	11人	9人	5人	0人
⑥プレゼンテーション	35人	9人	20人	9人	0人
⑦グループワーク	38人	18人	8人	8人	1人
⑧課題解決型学習（PBL）	48人	13人	9人	2人	1人
⑨反転学習	57人	8人	7人	0人	1人
⑩フィールドワーク	61人	6人	4人	1人	1人
⑪体験学習	44人	12人	11人	5人	1人
⑫その他	66人	2人	0人	4人	1人

※その他具体的内容

学習指導案の作成及び模擬授業の実施

専用ノートの使用と提出、質問カードの提出

ビデオ映像から行動の観察記録をとる

ゲストによる講義とそのまとめ

オーティエンシスレスポンスシステム（Socratic）の活用

(n = 73)

② 演習科目

	なし	少し	ある程度	大いに	無効回答
①発問・応答・挙手を求める	0人	9人	30人	45人	0人
②コメント・質問の提出および回答	9人	15人	22人	36人	2人
③課題やレポートの提出	5人	9人	17人	51人	2人
④ディスカッション・ディベート	16人	16人	24人	26人	2人
⑤ブレインストーミング	23人	28人	19人	11人	3人
⑥プレゼンテーション	9人	15人	25人	33人	2人
⑦グループワーク	18人	17人	18人	28人	3人
⑧課題解決型学習（PBL）	35人	14人	17人	16人	2人
⑨反転学習	56人	14人	8人	4人	2人
⑩フィールドワーク	53人	18人	8人	3人	2人
⑪体験学習	45人	17人	10人	10人	2人
⑫その他	78人	2人	0人	2人	2人

※その他具体的内容

ピアレビュー 作品制作、鑑賞、活用

(n = 84)

③ 実習・実技科目

	なし	少し	ある程度	大いに	無効回答
①発問・応答・挙手を求める	0人	6人	10人	9人	1人
②コメント・質問の提出および回答	2人	4人	8人	11人	1人
③課題やレポートの提出	2人	1人	6人	16人	1人
④ディスカッション・ディベート	7人	10人	2人	6人	1人
⑤ブレインストーミング	11人	8人	3人	3人	1人
⑥プレゼンテーション	7人	5人	7人	6人	1人
⑦グループワーク	3人	11人	5人	6人	1人
⑧課題解決型学習（PBL）	13人	7人	2人	3人	1人
⑨反転学習	20人	4人	1人	0人	1人
⑩フィールドワーク	14人	0人	4人	7人	1人
⑪体験学習	7人	2人	2人	14人	1人
⑫その他	24人	0人	0人	1人	1人

※その他具体的内容

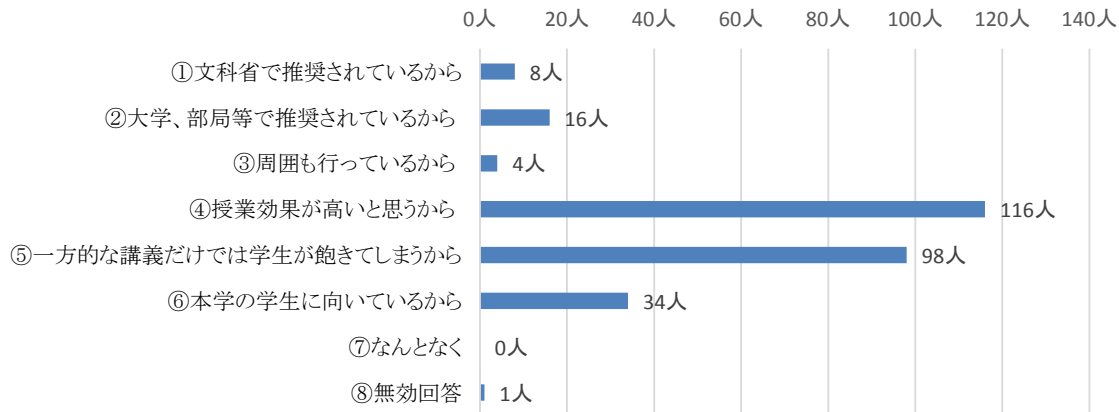
学生が現場実習の前後に大学へ提出する課題から、現場実習において能動的に学んでいる様子がうかがえる
--

(n = 26)

問3

【アクティブラーニング導入済の方132名のみ回答】

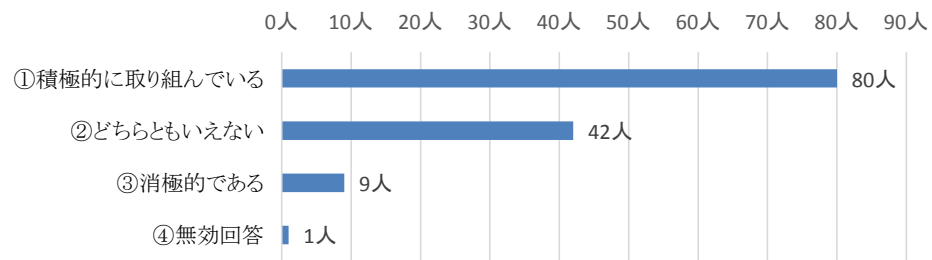
アクティブラーニングを取り入れているのはなぜですか（複数回答可）。



問4

【アクティブラーニング導入済の方132名のみ回答】

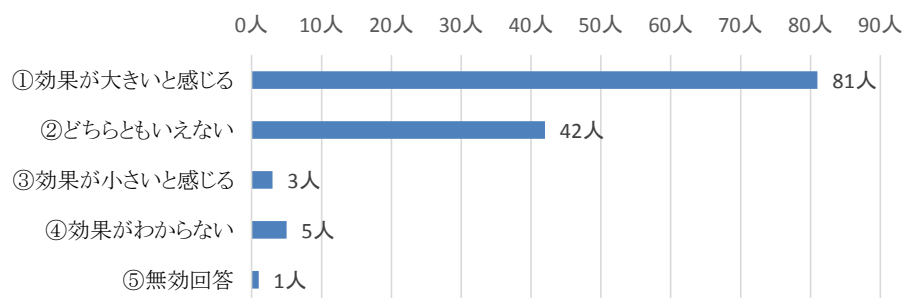
アクティブラーニングを取り入れている授業における学生の反応についてどのように感じていますか。



問5

【アクティブラーニング導入済の方132名のみ回答】

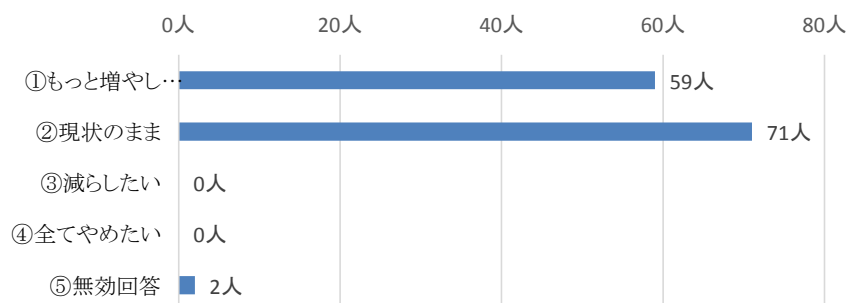
アクティブラーニングを採用して学生に対する効果、成果を実感しますか。



問6

【アクティブラーニング導入済の方132名のみ回答】

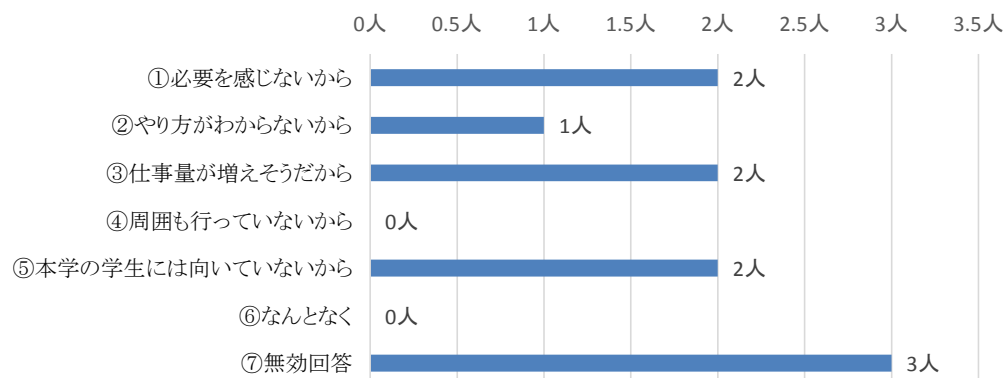
アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。



問7

【アクティブラーニング未導入の方8名のみ回答】

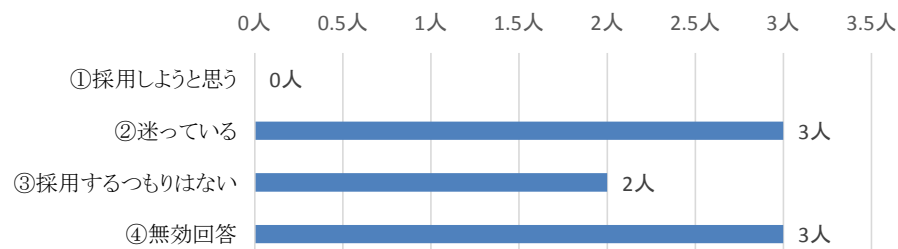
アクティブラーニングを採用していない理由をお聞かせ下さい（複数回答可）



問8

【アクティブラーニング未導入の方8名のみ回答】

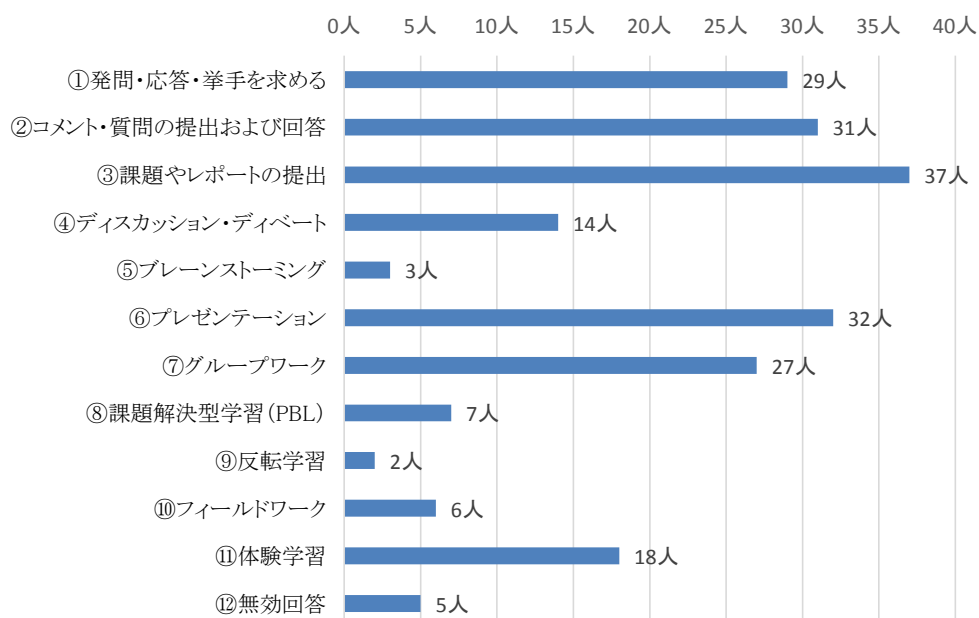
アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。



問9

【問5で「①効果が大きいと感じる」と答えた方81名のみ回答】

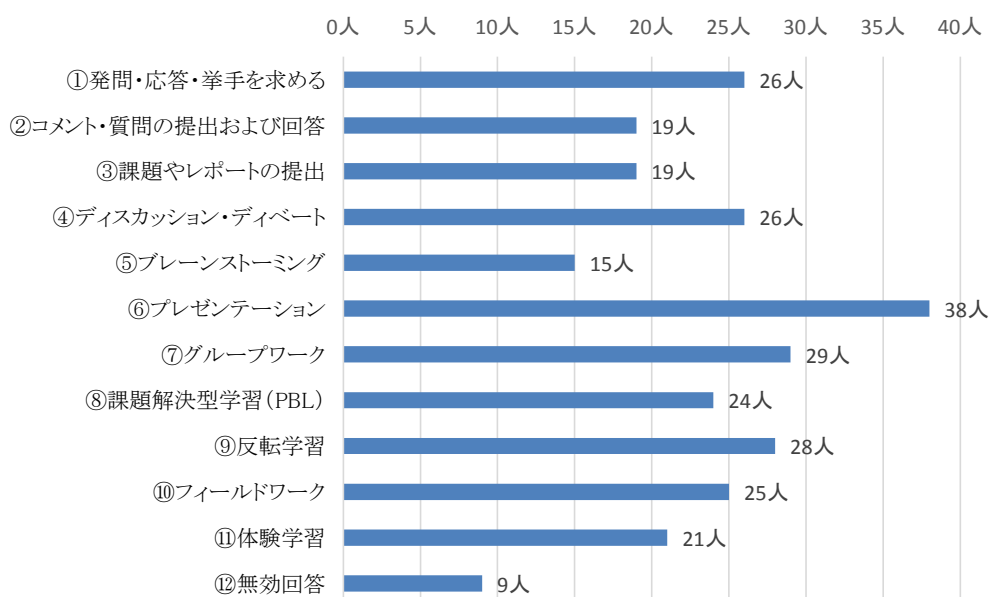
アクティブラーニングの中で、どの要素に効果を感じていますか。
三つまであげて下さい（三つまで回答可）。



問10

【すでにアクティブラーニングを実施している方と現在は実施していないが
 今後は実施しようと思っている方127名のみ回答】

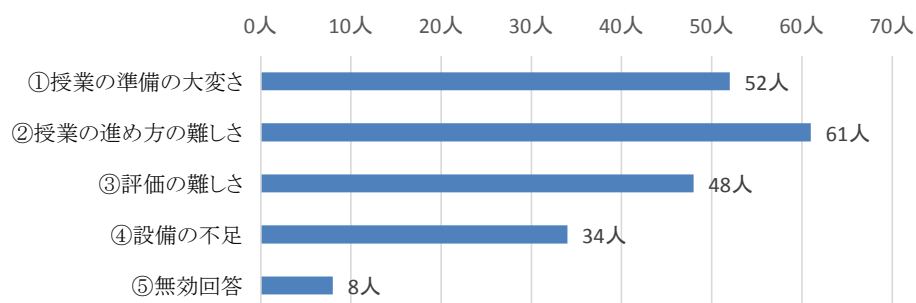
今後実施してみたいアクティブラーニングの要素を、三つまであげて下さい。
 (三つまで回答可)。



問11

【該当者116名のみ回答】

アクティブラーニングを採用するにあたって課題と覚えることはありますか
 (複数回答可)。



※問4.～5、及び問11に対してのコメント

アクティブラーニングの効果が出る最適学生数があると思われる。
 学生数が多すぎると効果が出ない。
 コメント、レポート(課題)に対する指導・再提出には少人数授業か補助教員が
 どうしても必要と考える

2 アンケート票と回答用紙

2015 年 12 月 25 日

AL ワーキンググループ、企画・IR 室

アクティブラーニングの現状についてのアンケート調査

1. 調査の目的

東京成徳大学に所属する全教員へのアンケート調査を通して、本学におけるアクティブラーニングの現状を明らかにすることを目的とする。

※本アンケートで対象とするアクティブラーニング

一方向な知識伝達型講義ではなく、学生に、書く、話す、発表するなどの能動的な活動を促す学習法を取り入れている授業を対象とします。

具体的には、発問・応答・挙手を求める、コメント・質問の提出および回答、課題やレポートの提出、ディスカッション・ディベート、ブレインストーミング、プレゼンテーション、グループワーク、課題解決型学習（PBL）、反転学習、フィールドワーク、体験学習などの授業方法を取り入れた授業です。

2. 回収期間・場所

2016 年 1 月 11 日～1 月 25 日（教務課へご提出下さい）

3. アンケートの配布対象者

平成 27 年度後期に授業を担当した東京成徳大学全教員（非常勤講師含む）

4. アンケート調査の対象科目

平成 27 年度後期の授業科目（通年科目の場合は後期分の授業を対象とする）

5. 調査の方法

アンケート用紙と回答用紙（マークシート方式）を教務課を通して配布・回収

6. 調査項目

- ・アクティブラーニングを採用している授業数
- ・アクティブラーニングの要素と頻度
- ・アクティブラーニングを採用している授業における学生の反応
- ・アクティブラーニングを採用するにあたっての課題
- ・アクティブラーニングを採用していない理由 など

7. 調査結果の取扱

報告書の作成、HP などへの公開

8. 実施主体

AL ワーキンググループ及び企画・IR 室

9. 参考資料

本調査は、北海道大学高等教育推進機構（徳井美智代、宮本淳）の「北海道大学におけるアクティブラーニング及びPBL 型授業の現状についてのアンケート調査集計」（2014年3月）を参考とした。

アンケート項目

※ご回答頂く際には、ボールペン（黒）か鉛筆（HB 以上）をご使用下さい。

- 「あなたのこと」を教えてください。

(1)年齢

- ①30 歳未満 ②30～40 歳未満 ③40～50 歳未満
④50～60 歳未満 ⑤60 歳以上

(2)性別

- ①女性 ②男性

(3)勤務形態

- ①専任 ②特任 ③非常勤

(4)大学での教育歴

- ①2 年未満 ②2～5 年未満 ③5～10 年未満
④10～20 年未満 ⑤20 年以上

(5)所属

- ①子ども学科 ②経営学科 ③福祉心理学科 ④臨床心理学科
⑤健康・スポーツ心理学科 ⑥日本伝統文化学科 ⑦国際言語文化学科
⑧観光文化学科

- 今年度後期にご担当の授業科目についてお答え下さい。

（通年科目の場合は後期分の授業を対象とする）。

問 1 以下の授業科目のそれぞれで、アクティブラーニングを採用している科目数はどれくらいありますか。分子、分母に該当する番号をお選び下さい（入門・教養科目、専門・専門関連科目の区別、講義科目、演習科目、実習・実技科目の区別は、『学生便覧』『シラバス』に掲載されている「カリキュラム表」をご参照下さい）。

(1) 入門・教養科目

- ・講義科目

アクティブラーニングを採用している科目数（ ① ）
担当している科目数（ ② ）

- ・演習科目

アクティブラーニングを採用している科目数（ ③ ）
担当している科目数（ ④ ）

- ・実習・実技科目

アクティブラーニングを採用している科目数（ ⑤ ）
担当している科目数（ ⑥ ）

(2) 専門・専門関連科目

・講義科目

アクティブラーニングを採用している科目数 (⑦)
担当している科目数 (⑧)

・演習科目

アクティブラーニングを採用している科目数 (⑨)
担当している育科目数 (⑩)

・実習・実技科目

アクティブラーニングを採用している科目数 (⑪)
担当している科目数 (⑫)

問2 アクティブラーニングの要素としては、以下の各項目をそれぞれの程度導入していますか。

※**先ず初めに導入済の場合はマークシートの「①」を、未導入の場合はマークシートの「①」をマークして下さい。（設問毎）**

(1) 入門・教養科目 【問1の(①)で「1以上」を選んだ方はご回答下さい】

①講義科目（複数の科目を担当している場合は、それらを全体的に見た結果をお選び下さい）

	なし	少し	ある程度	大いに
①発問・応答・挙手を求める	1	2	3	4
②コメント・質問の提出および回答	1	2	3	4
③課題やレポートの提出	1	2	3	4
④ディスカッション・ディベート	1	2	3	4
⑤ブレインストーミング	1	2	3	4
⑥プレゼンテーション	1	2	3	4
⑦グループワーク	1	2	3	4
⑧課題解決型学習（PBL）	1	2	3	4
⑨反転学習	1	2	3	4
⑩フィールドワーク	1	2	3	4
⑪体験学習	1	2	3	4
⑫その他	1	2	3	4

※「⑫その他」を選んだ方は、回答用紙に具体的内容をご記入下さい。

②演習科目【問1の(③)で「1以上」を選んだ方はご回答下さい】

(複数の科目を担当している場合は、それらを全体的に見た結果をお選び下さい)

	なし	少し	ある程度	大いに
①発問・応答・挙手を求める	1	2	3	4
②コメント・質問の提出および回答	1	2	3	4
③課題やレポートの提出	1	2	3	4
④ディスカッション・ディベート	1	2	3	4
⑤ブレインストーミング	1	2	3	4
⑥プレゼンテーション	1	2	3	4
⑦グループワーク	1	2	3	4
⑧課題解決型学習 (PBL)	1	2	3	4
⑨反転学習	1	2	3	4
⑩フィールドワーク	1	2	3	4
⑪体験学習	1	2	3	4
⑫その他	1	2	3	4

※「⑫その他」を選んだ方は、回答用紙に具体的内容をご記入下さい。

③実習・実技科目【問1の(⑤)で「1以上」を選んだ方はご回答下さい】

(複数の科目を担当している場合は、それらを全体的に見た結果をお選び下さい)

	なし	少し	ある程度	大いに
①発問・応答・挙手を求める	1	2	3	4
②コメント・質問の提出および回答	1	2	3	4
③課題やレポートの提出	1	2	3	4
④ディスカッション・ディベート	1	2	3	4
⑤ブレインストーミング	1	2	3	4
⑥プレゼンテーション	1	2	3	4
⑦グループワーク	1	2	3	4
⑧課題解決型学習 (PBL)	1	2	3	4
⑨反転学習	1	2	3	4
⑩フィールドワーク	1	2	3	4
⑪体験学習	1	2	3	4
⑫その他	1	2	3	4

※「⑫その他」を選んだ方は、回答用紙に具体的内容をご記入下さい。

(2) 専門・専門関連科目【問1の(⑦)で「1以上」を選んだ方はご回答下さい】

①講義科目

(複数の科目を担当している場合は、それらを全体的に見た結果をお選び下さい)

	なし	少し	ある程度	大いに
①発問・応答・挙手を求める	1	2	3	4
②コメント・質問の提出および回答	1	2	3	4
③課題やレポートの提出	1	2	3	4
④ディスカッション・ディベート	1	2	3	4
⑤ブレインストーミング	1	2	3	4
⑥プレゼンテーション	1	2	3	4
⑦グループワーク	1	2	3	4
⑧課題解決型学習 (PBL)	1	2	3	4
⑨反転学習	1	2	3	4
⑩フィールドワーク	1	2	3	4
⑪体験学習	1	2	3	4
⑫その他	1	2	3	4

※「⑫その他」を選んだ方は、回答用紙に具体的内容をご記入下さい。

②演習科目【問1の(⑨)で「1以上」を選んだ方はご回答下さい】

(複数の科目を担当している場合は、それらを全体的に見た結果をお選び下さい)

	なし	少し	ある程度	大いに
①発問・応答・挙手を求める	1	2	3	4
②コメント・質問の提出および回答	1	2	3	4
③課題やレポートの提出	1	2	3	4
④ディスカッション・ディベート	1	2	3	4
⑤ブレインストーミング	1	2	3	4
⑥プレゼンテーション	1	2	3	4
⑦グループワーク	1	2	3	4
⑧課題解決型学習 (PBL)	1	2	3	4
⑨反転学習	1	2	3	4
⑩フィールドワーク	1	2	3	4
⑪体験学習	1	2	3	4
⑫その他	1	2	3	4

※「⑫その他」を選んだ方は、回答用紙に具体的内容をご記入下さい。

③実習・実技科目【問1の（⑪）で「1以上」を選んだ方はご回答下さい】

（複数の科目を担当している場合は、それらを全体的に見た結果をお選び下さい）

	なし	少し	ある程度	大いに
①発問・応答・挙手を求める	1	2	3	4
②コメント・質問の提出および回答	1	2	3	4
③課題やレポートの提出	1	2	3	4
④ディスカッション・ディベート	1	2	3	4
⑤ブレインストーミング	1	2	3	4
⑥プレゼンテーション	1	2	3	4
⑦グループワーク	1	2	3	4
⑧課題解決型学習（PBL）	1	2	3	4
⑨反転学習	1	2	3	4
⑩フィールドワーク	1	2	3	4
⑪体験学習	1	2	3	4
⑫その他	1	2	3	4

※「⑫その他」を選んだ方は、回答用紙に具体的内容をご記入下さい。

問3 アクティブラーニングを取り入れているのはなぜですか（複数回答可）。

※問1の分子（①）（③）（⑤）（⑦）（⑨）（⑪）が全て「0」の方は回答不要です。マークシートの「⑩」をマークして問7へお進み下さい。

- ①文科省で推奨されているから
- ②大学、部局等で推奨されているから
- ③周囲も行っているから
- ④授業効果が高いと思うから
- ⑤一方的な講義だけでは学生が飽きてしまうから
- ⑥本学の学生に向いているから
- ⑦なんとなく

問4 アクティブラーニングを取り入れている授業における学生の反応についてどのように感じていますか。

※問1の分子（①）（③）（⑤）（⑦）（⑨）（⑪）が全て「0」の方は回答不要です。マークシートの「⑩」をマークして問7へお進み下さい。

- ①積極的に取り組んでいる
- ②どちらともいえない
- ③消極的である

問5 アクティブラーニングを採用して学生に対する効果、成果を実感しますか。

※問1の分子(①)(③)(⑤)(⑦)(⑨)(⑪)が全て「0」の方は回答不要です。マークシートの「⑩」をマークして問7へお進み下さい。

- ①効果が大きいと感じる
- ②どちらともいえない
- ③効果が小さいと感じる
- ④効果がわからない

問6 アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

※問1の分子(①)(③)(⑤)(⑦)(⑨)(⑪)が全て「0」の方は回答不要です。マークシートの「⑩」をマークして問7へお進み下さい。

- ①もっと増やしたい
- ②現状のまま
- ③減らしたい
- ④全てやめたい

問7 アクティブラーニングを採用していない理由をお聞かせ下さい(複数回答可)

※問1の分子(①)(③)(⑤)(⑦)(⑨)(⑪)が全て「0」の方のみご回答ください。回答不要の方は、マークシートに「⑩」をマークして問9へお進み下さい。

- ①必要を感じないから
- ②やり方がわからないから
- ③仕事量が増えそうだから
- ④周囲も行っていないから
- ⑤本学の学生には向いていないから
- ⑥なんとなく

問8 アクティブラーニング科目への取り組みについて今後どのように考えていますか。

※問1の分子(①)(③)(⑤)(⑦)(⑨)(⑪)が全て「0」の方のみご回答ください。回答不要の方は、マークシートに「⑩」をマークして問9へお進み下さい。

- ①採用しようと思う
- ②迷っている
- ③採用するつもりはない

問 9 【問 5 で「①効果が大きいと感じる」と答えた方のみご回答下さい】

アクティブラーニングの中で、どの要素に効果を感じていますか。三つまであげて下さい（三つまで回答可）。

※回答不要の方はマークシートの「⑩」をマークして下さい。

- ①発問・応答・挙手を求める
- ②コメント・質問の提出および回答
- ③課題やレポートの提出
- ④ディスカッション・ディベート
- ⑤ブレインストーミング
- ⑥プレゼンテーション
- ⑦グループワーク
- ⑧課題解決型学習（PBL）
- ⑨反転学習
- ⑩フィールドワーク
- ⑪体験学習

問 10 【すでにアクティブラーニングを実施している方と現在は実施していないが今後は実施しようと思っている方にご回答下さい】

今後実施してみたいアクティブラーニングの要素を、三つまであげて下さい。（三つまで回答可）。

※該当しない方はマークシートの「⑩」をマークして下さい。

- ①発問・応答・挙手を求める
- ②コメント・質問の提出および回答
- ③課題やレポートの提出
- ④ディスカッション・ディベート
- ⑤ブレインストーミング
- ⑥プレゼンテーション
- ⑦グループワーク
- ⑧課題解決型学習（PBL）
- ⑨反転学習
- ⑩フィールドワーク
- ⑪体験学習

問 11 アクティブラーニングを採用するにあたって課題と覚えることはありますか
(複数回答可)。

※該当しない方はマークシートの「⑩」をマークして下さい。

- ①授業の準備の大変さ
- ②授業の進め方の難しさ
- ③評価の難しさ
- ④設備の不足

●アクティブラーニングについて、ご意見、
ご感想、ご提案などがございましたら、
1 月 25 日までに、下記までメールでお送り
下さい。

企画・IR 室 ir@tsu.ac.jp

ご協力ありがとうございました。

アクティブラーニングの現状についてのアンケート調査(回答用紙)

※ ご回答頂く際には、ボールペン(黒)か鉛筆(HB以上)をご使用下さい。

氏名：

「あなたのこと」を教えてください。									
(1)	①	②	③	④	⑤				
(2)	①	②							
(3)	①	②	③						
(4)	①	②	③	④	⑤				
(5)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	

問1(1) 入門・教養科目									
①	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
②	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
③	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
④	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨

問1(2) 専門・専門関連科目									
⑦	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
⑧	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
⑨	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
⑩	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
⑪	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
⑫	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨

問2(1) ① 入門・教養科目 (講義科目)				
※導入済の方は「①」、未導入の方は「②」をマークして下さい。				
① ②				
①	①	②	③	④
②	①	②	③	④
③	①	②	③	④
④	①	②	③	④
⑤	①	②	③	④
⑥	①	②	③	④
⑦	①	②	③	④
⑧	①	②	③	④
⑨	①	②	③	④
⑩	①	②	③	④
⑪	①	②	③	④
⑫	①	②	③	④
その他				

問2(1) ② 入門・教養科目 (演習科目)				
※導入済の方は「①」、未導入の方は「②」をマークして下さい。				
① ②				
①	①	②	③	④
②	①	②	③	④
③	①	②	③	④
④	①	②	③	④
⑤	①	②	③	④
⑥	①	②	③	④
⑦	①	②	③	④
⑧	①	②	③	④
⑨	①	②	③	④
⑩	①	②	③	④
⑪	①	②	③	④
⑫	①	②	③	④
その他				

問2(1) ③ 入門・教養科目 (実習・実技科目)				
※導入済の方は「①」、未導入の方は「②」をマークして下さい。				
① ②				
①	①	②	③	④
②	①	②	③	④
③	①	②	③	④
④	①	②	③	④
⑤	①	②	③	④
⑥	①	②	③	④
⑦	①	②	③	④
⑧	①	②	③	④
⑨	①	②	③	④
⑩	①	②	③	④
⑪	①	②	③	④
⑫	①	②	③	④
その他				

※裏面に続く

問2(2) ① 専門・専門関連科目（講義科目）				
※導入済の方は「①」、未導入の方は「②」をマークして下さい。				
	①	②	③	④
①	①	②	③	④
②	①	②	③	④
③	①	②	③	④
④	①	②	③	④
⑤	①	②	③	④
⑥	①	②	③	④
⑦	①	②	③	④
⑧	①	②	③	④
⑨	①	②	③	④
⑩	①	②	③	④
⑪	①	②	③	④
⑫	①	②	③	④
その他				

問2(2) ③ 専門・専門関連科目（実習・実技科目）				
※導入済の方は「①」、未導入の方は「②」をマークして下さい。				
	①	②	③	④
①	①	②	③	④
②	①	②	③	④
③	①	②	③	④
④	①	②	③	④
⑤	①	②	③	④
⑥	①	②	③	④
⑦	①	②	③	④
⑧	①	②	③	④
⑨	①	②	③	④
⑩	①	②	③	④
⑪	①	②	③	④
⑫	①	②	③	④
その他				

問2(2) ② 専門・専門関連科目（演習科目）				
※導入済の方は「①」、未導入の方は「②」をマークして下さい。				
	①	②	③	④
①	①	②	③	④
②	①	②	③	④
③	①	②	③	④
④	①	②	③	④
⑤	①	②	③	④
⑥	①	②	③	④
⑦	①	②	③	④
⑧	①	②	③	④
⑨	①	②	③	④
⑩	①	②	③	④
⑪	①	②	③	④
⑫	①	②	③	④
その他				

※問1の分子（①）（③）（⑤）（⑦）（⑨）（⑪）が 全て「②」の方は回答不要です。 回答不要の方は、問3～6に「②」をマークして問7へお進み下さい。								
問3	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	②
問4	①	②	③	②				
問5	①	②	③	④	②			
問6	①	②	③	④	②			

※問1の分子（①）（③）（⑤）（⑦）（⑨）（⑪）が 全て「②」の方のみご回答ください。 回答不要の方は、問7～8に「②」をマークして問9へお進み下さい。							
問7	①	②	③	④	⑤	⑥	②
問8	①	②	③	②			

※問5で「①」と答えた方のみご回答下さい。 回答不要の方は「②」をマークして下さい。												
問9	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	②

※該当しない方は「②」をマークして下さい。												
問10	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	②

※該当しない方は「②」をマークして下さい。					
問11	①	②	③	④	②

※ご協力ありがとうございました。